

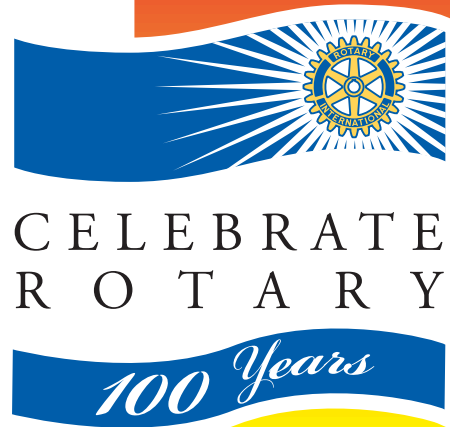
国際ロータリー 第2510地区

2004-2005年度

ガバナー一月信

国際ロータリー第2510地区
2004-2005年度ガバナー 遠藤 秀雄

〒059-0034 北海道登別市鷺別町2丁目31-1 医療法人社団友愛会 恵愛病院2F
TEL : (0143)82-2510 FAX : (0143)82-2512
e-mail : keiai.hp.rc@triton.ocn.ne.jp



DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL
2004-2005
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナーs LETTER	3
ガバナー日記	4
この1年間を振り返って～ガバナー補佐～	8
この1年間を振り返って～地区委員会～	13
地区委員会活動報告	
・第4回家庭奉仕委員会報告	
・「ネパール・日本友情学校が完成しました」	
・2004-2005国際ロータリー第2510地区 インターアクト年次大会(静内インターアクトクラブ10周年記念)	25
“会議は踊る”・“職業奉仕論議”心景・エステス100周年会議	27
親睦活動委員会ニュース	29
クラブ活動紹介	
・チャリティコンサートを開催	
・プロ野球セバ交流戦に障害者100人招待	30
・傷ついた子 笑顔戻った	31
・チャリティーパークゴルフ大会実施報告	32
・当別の夏至祭にスウェーデンのロータリアンがやって来た	33
ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	
米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます	33
訃報/掲示板	34
5月会員増減数・出席率報告	35
6月会員増減数・出席率報告	36
編集後記	37

2004-2005 Governor
ENDO HIDEO

Keiai Hospital 2F, Washibetsu-cho, 2-31-1, Noboribetsu, Hokkaido, 059-0034, JAPAN
(e-mail : keiai.hp.rc@triton.ocn.ne.jp) TEL.81-143-82-2510 FAX.81-143-82-2512

No.13 **8**
2005. **8**

2004～2005

ガバナー月信最終号をお送りします

当刊No. 13号をもちまして、2004～2005年度月信の終刊となりました。地区内各RC会員各位の温かいご支援とご協力に心からの感謝を申し上げます。各位の益々のご健勝とRCのご発展を祈念申し上げます。

G GOVERNOR'S LETTER

年度を終るに当たって

国際ロータリー第2510地区

ガバナー 遠藤 秀雄



私がガバナーに就任する前、即ちエレクトの時に悩んだことがいくつかあります。

1つは会員数が減少するなかで、地区組織をどうするかであります。RCの活性化を考慮した上で組織の簡素化を計る事を考えましたが、単年度で思い切ったことをするよりは継続して行う方がよりベターではと

思い、当時の塚原ノミニと相談の上、着手しました。限られた地区資金を有効に使うため地区委員会費もなるべく纏めて使ってもらう様にしました。

2つ目はロータリー100周年の記念すべき年度にあたります。皆の負担にならない事業が必要です。1905年2月23日に因んで、“2005年2月23日”に地区内すべてのロータリアン及び家族にロータリーを祝っていただく行事をグループ、あるいはRC単位でお願いをしました。また、これまで何度もお誘いのあった第3700地区との姉妹締結を100周年実行委員会の提案を受けて実行に移すことでした。これは今後、国際奉仕委員会に引き継がれて参ります。

3つ目は月信のあり方でありました。月信本来の姿に戻すべきか、地区内情報も盛り込むべきか迷いましたが、ロータリーの友誌がRIの情報ばかりでなく、他地区の情報も取り入れている以上、地区内の情報が必要となりますが、別に情報誌を出す程の余裕はなく、月信に2つの目的を持たせることを地区幹事会で決定しました。

4つ目は地区リーダーシッププランに沿いつつも、各RCからガバナーの顔が見えないようでは困ると考え、時間のゆるす限り、地区委員会活動やRCの記念行事に参加する事を決めました。予算の関係でなるべく単独で行動することにしました。年間15回の地区幹事会、財務委員会を開いてその都度細部を相談し決めてきました。一年を通してこの条件を誠実に実行したつもりですが、会員の皆様のお役に立てたかどうかは全く見当がつかみません。振り返って見ると公式訪問は24日で27回の合同例会と72RC会長・幹事・副会長さんと懇談会を持ち、

RIの方針、地区の方針、財団及びポリオへの協力や、RCの活動状況、悩み事等を伺いました。多くのRCで新入会員の減少、退会者の増加に悩みながらも、国際奉仕、社会奉仕や青少年の育成に活動を惜しまず立派だと思えました。この他国外は2回、韓国3700地区大会とシガゴ国際大会に出席、国内にはRI会長主催会議、ゾーン研究会、ガバナー会議等12回、地区内には地区委員会プログラムや会議、グループ研究会、RC記念行事等で78回も出席させて頂きました。確かに体力的には厳しい日程もありましたが、何よりもロータリアン同志の沢山の出会いがあり、親睦が深められたことは有り難い経験であったと思います。

お陰様で財団年次寄付は101.48ドルで、RIの目標である毎年1人100ドルを達成する事が出来ましたが、残念なのはポリオ撲滅募金キャンペーンであります。3年間で1人150ドルの最終年にあたり、何とか1人100ドルは越えて欲しいと念願していましたが、89.66ドルに終わってしまいました。ガバナーとしての力不足を痛感しております。

今年度はロータリー100周年の記念すべき年にガバナーの任に就くことが出来たことを大変光栄に存じます。私を支えてくださった伊奈昭夫代表幹事ははじめ地区幹事、若木財務委員長、財務委員、事務局の阿部さん、熊谷さん、各地区委員の皆様、また地区内の研修会や地方都市の特徴を表現し地区大会を成功させて頂いた登別RCをはじめ第9グループ鈴木久雄ガバナー補佐、各RCの皆様にも心から感謝を申し上げます。一年間を通して惜しまぬご協力を頂いたパスト・ガバナーの皆様、12名のガバナー補佐の皆様、72クラブの会員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。最後に体調を崩すことなく活動に専念出来たことに対し、私の家内や職場の皆様にも感謝致します。



ガバナー日記

5月21日(土) 第13回長沼国際交流フェスティバルに13時から出席した。

実は10時からTシャツサイン交流会や昼食会がおこなわれており、開会式も堅苦しい雰囲気はなく実行委員長・高木繁秀会員の開会宣言後は交換留学生や他の留学生達が各国別にブースを開いて子供達にスタンプを押したり、会話を楽しんでいた。会場の中央ではゲームをしたり、餅つきが行われすぐに美味しい餅菓子にしてください。16時から同じ長沼町民会館で懇親会が開かれる予定であるが、私は次の予定があり、途中で失礼をしたが、実に楽しい会であった。

栗山町に移り16時から栗山RC35周年記念式典に出席する。川口孝太郎・栗山町長をはじめ大勢のご来賓、第3グループは土谷茂樹ガバナー補佐をはじめ各RC会長、幹事、由仁RCからも会長、幹事、姉妹RCである第2520地区角田RCからは毛利友一会長他6名の皆さんが出席された。

記念事業としては、桜の木135本が地元企業22社に贈呈され、栗山赤十字病院の透析室増築に対して甦生器が贈呈された。太田ヒロ子会長から創立会員3名に感謝状が贈呈された。引き続いて祝賀会に移り和やいだ雰囲気の中でSoRaの美形のお二人によるマリンバ演奏を楽しんだ。翌日は羽幌の予定があるため滝川へ移動して宿泊する。

5月22日(日) 第1グループ合同研修・交流会「みつめようロータリークラブの過去と未来」と題して13時30分から「はほろ温泉サンセットプラザ」を会場として行われた。

山本三次郎ガバナー補佐の点鐘で開会、形通りのセレモニーの後、講演「現代世相を考える」。講師は北海道長寿社会振興財団講師の水戸均氏で小・中学校長を歴任退官された方で古典芸能を愛することから和服で座布団に座っての語り口で、過去と現代青少年像を比較しながら示唆に富んだお話であった。交流懇親会はご自慢の新鮮な海の幸がテーブル一杯に並べられ美味を堪能した。山本ガバナー補佐に代表されるように第1グループの皆さんの飾らない人柄に触れると癒される思いがする。

5月28日(土)～29日(日) ローターアクト地区大会が、千歳ローターアクトクラブをホストにして千歳エアポートホテルアネックスで行われた。

私は第1日目の開会式とメインプログラムに参加したが、今回はJRを利用したため、佐藤秀雄直前ガバナーと千歳RC服部隆志会長に南千歳駅までお迎え頂いたのは恐縮した。心から感謝を申し上げる。D. 2510ローターアクト代表、斎藤 心さんの点鐘で開会、地区内ローターアクトの他2760地区からも2名のローターアクトの参加があった。ロータリアンは地区委員長・柳孝一さんはじめ委員や恵庭RCからも大勢のご参加があった。メインプログラムは障害者支援で①車椅子介助、ホテルからいくつも横断歩道を渡ってボスフルまで往復し買い物の介助をする。②視覚障害者の食事の介助と両方を体験するプログラムで、実際に体験してみるとその大変さがよく解る。貴重な体験をさせてもらった。

6月4日(土) 倶知安RC40周年記念式典が14時からホテル第1会館で行われた。

生憎、国際親善奨学生の面接試験と重なってしまい、試験の方は丸山ガバナー・ノミニーをお願いをした。倶知安町長伊藤弘さんをはじめ12名の地元のご来賓があり、第6グループからも関幸吉ガバナー補佐以下各RCから大勢のご参加があった。このRCと因縁浅からぬ石垣博美バスト・ガバナーも出席され、記念品を贈られた。ついでに私も記念品を頂戴してしまった。記念事業は倶知安町子育て支援事業としてダイハツ・ミラセダンD1台が贈呈され、40周年記念誌を発刊されると聞いている。8人の物故会長の功績に対して記念品が贈呈され、クラブ表彰は46名に及んだ。さすがに伝統の重みを感じた。祝賀会は和やかで太鼓やギターと尺八の共演、歌謡ショーなど盛り沢山の大変楽しい一時を過ごすことができた。

6月6日(月) 第14回地区幹事会及び財務委員会

6月12日(日) 開催のガバナー補佐・地区委員長引継ぎ会議の最終チェック及び年度内予算の検討を行う。

No. 32

Date '05. 8. 1

6月11日(土) 米山奨学家族懇親会

朝里クラッセホテルで一泊二日の楽しい会である。見延委員長の英断で、昨年の登別温泉に引き続き、運営はすべて米山奨学会のメンバーが取り仕切っているが、学友会(含家族)25名、奨学生(含家族)16名、ロータリアン他27名と大勢の参加があり、大変活気がある。今年は挨拶、24名の学友と奨学生の自己紹介の後、小樽商科大学長秋山義明先生に「小樽商科大学と国際交流」と題して講演を頂いた。開学当初から英語教育に力を入れ、優秀な企業人を大勢育てたことが今日多数の留学生を受け入れ、活発な国際交流につながっていると含蓄のあるお話であった。第3部の懇親会は大勢で賑やかにビンゴゲームを楽しんだ。この後、第4部があったが翌日の予定があり失礼した。

6月12日(日) ガバナー補佐・地区委員長、引継ぎ会議が10時～17時札幌ランドホテルで行われた。

第1部は新・現ガバナー補佐引継ぎ会議で報告と計画が示された。

私からも最後のお願いとして財団寄付とポリオ撲滅募金キャンペーンの現状と協力についてお話をした。第2部はガバナー補佐と一緒に地区委員会委員長引継ぎ会議が行われた。塚原ガバナー・エレクトから改めて次年度のR I会長の考え方、及び地区方針が示され、委員会活動報告及び活動計画が各委員長から発表された。質疑ではやはりクラブリーダーシッププランと地区活動の整合性の問題であったが次年度は地区としては取り上げないこととなっている。第3部は合同懇親会で1日の緊張を癒し和やかなうちに伊藤長英研リーダーの乾杯で閉会となった。

6月14日(火) 第1・2ゾーン地区会員増強合同セミナー新高輪プリンスホテルで11時～15時に行われた。

板橋敏雄 R I 会員増強・退会防止委員会委員(日本の会員増強の親玉)は R I は日本の各 R C の会員増強を期待している。R C 会長が会員増強に熱心な年度は会員が増える傾向があるし、ロータリーは人を育てる不思議な魅力がある。

1905年から23年間にロータリーは43ヶ国に広がったが多分全世界に更に広がるであろう。その時には地域を耕

す必要があり、その根源は倫理観であるとのポール・ハリスの言葉を引用された。高橋文男 R I 会員組織地域コーディネーター(第1ゾーンの親玉)より“かながわ湘南 R C”は財団学友を中心に設立され、安い入会金と年会費で運営されて奉仕活動が活発。“いわき桜 R C”は女性会員20名の新会員ばかりで設立された。2つのユニークな新 R C を紹介された。また退会防止のために①質の向上、②職業奉仕の真髄を理解する、③魅力ある R C を作る、④ R C の活性化の必要性を強調された。更にどんな組織も対人関係の難しさはあるが涵養と忍耐というポール・ハリスの言葉を引用された。

6月16日(木) 第4回指名委員会及び第6回諮問委員会 18:00 札幌パークホテル。

07-08年度ガバナー候補者の R C 推薦が6月15日で締め切られたが、函館五稜郭 R C 光銭裕二会長から酒井正人会員の推薦があり、ご本人も承諾されていることから岩城・次期指名委員長より指名委委員会で決定された由ご報告を頂いた。R I 理事会でガバナー・ノミニー決定が半年早められたため指名委員長の任期がずれてしまった。次年度は半期ずつ努めていただく事になる。

諮問委員会では(仮称)函館セントラル R C 編成について報告し喜んでいただいた。ロータリー財団とポリオ寄付状況について報告をした。ガバナーとして一年間のご協力、ご指導に感謝を申し上げた。塚原ガバナー・エレクトから新年度に向けて決意表明とご協力のお願があった。

6月18日(土) 2005年国際ロータリー年次大会(シカゴ)に出席のため羽田経由で出発。

生憎、6月18日～19日インターアクト地区大会が静内で開催されたが、蘇田又栄第8グループガバナー補佐に代理をお願いした。大変好評であったとのご報告を頂き安心した。今回の国際大会の参加者は42,000人と聞いているが2510地区からも80余名の参加があった。滞在日数により地区ツアーは2班に分かれ、私どものツアーは16名であった。日付変更線の関係上18日16時シカゴ着、ホテルに直行し、19時からの北海道ナイトに出席、2500

地区からの25名の参加があり105名となり盛大な懇親が深められた。

6月19日(日)7時30分からマコミックプレイスで日本人親善朝食会が行われた。

約1,000人の参加があり大変な盛況であったが、誰がどこにいるのか判らず戸惑ってしまう程であった。エステスR I会長も顔を見せられ歓迎の挨拶をされた。その後大会手続きはスムーズであったが、会場はとつともなく広く、その上案内掲示が少なく長い廊下で分散されているため、大会信任状の手続きをするのに歩き回り手間取ってしまった。斎藤修弥WCS委員長ご夫妻と私の家内でシカゴの街見たさにダウンタウンにくり出したが、余り歓迎ムードは感じられない。ウオータータワーに行ってみたが、日曜日の午前中でもありひっそりとしていた。

開会式は収客人員の関係上3回に分けて行われたが、我々は16時30分～18時30分の第2回目の割り当てであった。マコミックプレイスに少し早めに到着し本会議場に入ってみて驚いた。ガバナー席が指定されていて網で仕切られていたが、その一角は既に一般会員によって占領されている。その側に何人ものSAAがいるのである。昨年の大阪大会と比べると、さすがアメリカでの国際大会は実におおらかである。



本会議では国連アナン事務総長、アメリカ・ブッシュ大統領の映像が映し出され、R Iに対する国際的支援に謝意と更なる協調が述べられ、エステスR I会長からも国際奉仕への感謝の意が表された。アトラクションはジャズ、自転車曲乗り、タップダンス、コーラス等青少年中心で楽しかったが、これも大阪大会と比較してみると、日本文化、

日本の美を紹介するのと彼我の違いを感じてしまった。

6月20日(月)2510地区ツアー“ロータリー軌跡をめぐるツアー”に参加。

エバンストンのロータリー本部、ポール・ハリスのお墓、カムリーバンク(P・ハリスの住宅)を見学、ガイド役を塚原ガバナー・エレクトにお願いし詳細に説明して頂いた。帰路途中で下車。シカゴ美術館でルノアール、モネ、ゴーギャン等印象派の絵を堪能することができた。



6月21日(火)“シカゴ川・ミシガン湖遊覧ツアー”に参加。

500年以上も地震に見舞われたことのない街なので、著名な建築家が意をこらして美しい建築物が建ち並んでいる。それを船上から見ようと言う趣向で大変見ごたえのあるツアーであった。下船後は再びダウンタウンでのお土産探し。夕食は3日間とも斎藤ご夫妻とご一緒に地図を広げて店選び、予約を入れたが、どの店もロータリアンで満席であり、国際大会を実感出来た。いずれの店も美味で幸せを感じた。



No. 34

Date '05. 8. 1

6月22日(水) 8時にホテルを出発帰路へ。

23日19時無事千歳着、楽しい友情にあふれた貴重な旅であった。ご参加の皆さんお疲れ様でした。明年6月はマルメ・コペンハーゲンの旅が待っています。

6月24日(木) 17時より札幌手稲RC創立35周年記念式典に出席。

針谷龍宣実行委員長、山地庸夫会長のお話を伺うと、地域に対し、青少年に対して実に様々な奉仕活動をして来られた事に敬意を表したい。また白石欽一バスター・ガバナーに初めてお目にかかったが顔色もよくお元気そうであった。しかし下肢が弱って移動が大変なのだとのお話であった。まだまだロータリーに対する関心は旺盛のようにお見受けした。記念事業はユニークで中学生5分間スピーチコンテストが5月28日に行われ、西区、手稲区から12名が参加。父兄、学校関係者、市民、ロータリアンも感動をうけた。またロータリー財団米山奨学会に金一封が贈られた。

6月26日(日) 私の所属する日本精神神経学会北海道地方会が旭川で行われた。

総会の議長をしているので旭川を往復、地区青少年交換学生歓送迎会が15時～17時札幌グランドホテルで盛会に行われたがこれには間に合わず、伊奈代表幹事、上田担当幹事をお願いをした。5時30分から青少年交換委員会の皆様と「1年間お疲れ様懇親会」が金剛山で開かれ、これには間に合って委員の皆様にお礼を申し上げた。

6月27日(月) 日本ロータリー親睦ゴルフ第15回北海道記念大会が苫小牧カントリークラブ・ブルックスコースで行われた。

親睦活動委員会の長太さん、灰野さんが中心となって準備が進められ、長崎県壱岐、広島、大阪、東京から87名の参加でご夫人も15名参加され盛大であった。時折小雨のバラつく中、ダブルペリアー方式で争われたがHDCP+1.2が出るハイレベルな戦いであったが、プレーもスムーズで楽しい大会であった。私は70才以上の部でハンデ

ーに助けられ4位に入賞できた。約2年間のブランクをこれから埋めて行きたい。全国の同好の人達との懇親は実に楽しいものである。

6月28日(火) 第4グループ会長・幹事引継ぎ会議が京王プラザホテルで開かれた。

昨年同様懇親会にお誘いを受け参上。高橋敏雄ガバナー補佐幹事の司会で小山秀昭ガバナー補佐の開会の辞、私からは小山ガバナー補佐、8RCの会長・幹事さんへお礼と坂本勝彦次年度ガバナー補佐、各RC会長・幹事さんへ激励を申し上げた。塚原房樹ガバナー・エレクトの乾杯後各RC会長・幹事さんのユーモラスな自己紹介があり、安堵する人達、不安をかくせない人達の微妙なコントラストがほどよく親睦を深めていった。

6月29日(木) 地区GSE委員会一現・新引継ぎ会議
18時 ロイトン札幌

山名善久・委員長からタイ・3350地区からチーム受入れ報告、次年度派遣チームの研修についての説明、武藤順・副委員長から次回GSEプログラム相手地区の交渉状況報告がありシンガポール等東南アジアを考えている。次年度活動について岡崎芳明・委員長から計画、予算、委員会構成の説明があった。次ぎに地区財政の厳しくなる中で受入の際の補助金について審議し世話RCに対しては補助額をアップするがホストファミリーに対する補助金はカットする事になった。次年度は3350地区に派遣するが、06-07年度は休んで07-08年度は受入と派遣を同時に行うことが申し合わされた。

6月は年度末であり行事が目白押しでいささか疲れたが、良い出会いと親交を暖めることが出来てガバナー冥利につきる。それにしても1年間駄文にお付き合い頂いたロータリアンの皆様心からお礼申し上げ終わりとしたい。

この1年間を振り返って

～ガバナー補佐～



この1年を振りかえって

第1グループ ガバナー補佐

山本 三次郎 (羽 幌)

国際ロータリーも前年度で創立100周年を迎え、この記念すべき年度に重責な第1グループのガバナー補佐を仰せつかい以来ガバナー遠藤秀雄様を始め各RCの会長、幹事各位のご協力を賜り1年間を無事終了する事ができました。

創立100周年の歩みを記念し、グレンE・エステスsr. RI会長のテーマ「ロータリーを祝おう」を合い言葉に、第1グループ各RCに於いて種々な記念の事業が行なわれました。

第1グループ全体の事業と致しましては、昨年の11月14日に留萌市で開催されました青少年剣道大会を始め、今年5月22日に羽幌町に於いて開催致しました「第1グループ・合同研修・交流会」を盛会に開催致し、その節は公私共に大変ご多忙の中、遠藤ガバナーには遠方よりご臨席を頂きました事から感謝致しております。また、年度始め第1回目よりガバナー補佐公式訪問させて頂きました節にも、各RCの会長さんを始め会員の皆さんに温かく歓迎して頂き且、RCの奉仕活動につきましても充実した活動内容も確認致しました。この間、私も事業最盛期の上期後半で体調を崩し、遠藤ガバナーを始め、各RCの皆様方に大変ご迷惑をお掛け致しました事を誠に申し訳なく思っております。1年間、皆様方の温かいロータリーの友情に囲まれガバナー補佐の任期を終えましたが、今後は再度初心を忘れずロータリー活動に邁進致す所存でございますので変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

限りなく続くロータリー、記念すべく国際ロータリー創立100周年の節目の年度も終わり新たな年度が始まりました。

国際ロータリー・第2510地区・遠藤ガバナー所属RCの今後の益々のご発展と遠藤ガバナーのご健勝をご祈念しお礼の言葉にかえさせて頂きます。1年間誠に有難うございました。



「この1年をふりかえって」

第2グループ ガバナー補佐

鈴木 忠男 (滝 川)

この1年、遠藤秀雄ガバナーのご指導を戴き、第2グループの会長・幹事さん、各RCの会員皆様の好意と友情を戴きながら、貴重なRCの仕事を楽しくさせて頂きました。

本年度はロータリー100周年の年に当り、私共第2グループでも100周年記念の奉仕活動や全国ロータリー野球大会地区予選、登別でのすばらしい地区大会、第2グループ合同例会と祝賀会、ロータリー100周年シカゴ国際大会など、グレン・E・エステスRI会長の掲げた「ロータリーを祝おう」のテーマに沿い、国際ロータリー、地区、グループ、RCで様々な行事が1年を通して開催されこれまで以上にRC会員や近隣RCとの親睦が深まった年となりました。

今後の問題点としてはやはり会員基盤を維持し会員増強すること。地域経済の低迷している現状では以前にも増してむずかしくなっておりますが、ロータリーは困難な時期にこそ誕生し発展してきましたので、今後の飛躍を期待します。

また、11人のガバナー補佐と沢山のすばらしいロータリアンとお会いでき、すばらしい思い出となりました。

この1年間、皆様のご指導・ご支援に心よりお礼申し上げます。



「1年を振り返って」

第3グループ ガバナー補佐

土谷 茂樹 (江 別 西)

早いもので、6月30日でガバナー補佐を退任することとなりました。

光陰矢のごとしとはよく言ったもので、あっという間に過ぎ去りましたが、多くの新たな出会いがありました。ガバナー補佐に任命された時は、いろいろと計画をしておりましたが、不幸にも病魔に侵され、2週間程入院、クラブ訪問が遅れてしまいました。これからはロータリアンとして、第3グループ内のRCへ訪れてみたいと思いますが、「あれは、誰だ？」なんて囁かれないようお願いしたいと思います。

この1年は、論文等と違い文書を読むのにひと苦勞で、皆さんから「髪が薄くなったね、毛髪剤でも使ってみては？」と薦められましたが、未だ実行しないでおります。

第3グループガバナー補佐 円子 保さんが毛髪剤を使うようにならないよう宜しくお願い致します。

私の任務の最大行事は「ロータリー100周年合同例会」でした。当別の地で開催し、遠藤ガバナーをはじめ多くのロータリアンのご参加をいただきました。特に当別RCの皆さんが立派に役割を実行され、とてもロータリーらしい会になりました。

各RCの会長・幹事さんをはじめ皆さんに1年間大変お世話になりました。お礼申し上げます。

又、お逢いできることを楽しみにしています。



「ガバナー補佐の思い出」

第4グループ ガバナー補佐

小山 秀 昭 (札幌手稲)

ロータリー創立100周年の節目のときに第2510地区第4グループガバナー補佐をさせて頂いた事は私にとって大変いい思い出になりました。

当初はどうなる事かと不安のスタートでしたが、やるべきことや計画書が出来、各RCを訪問し始めてから徐々に先が見えてきました。しかしガバナーの方針をきちんと各RCの皆さんにお伝え出来たかどうか未だに自信がありません。

最大の思い出はやはり第4・第5グループ札幌市内のロータリアンが市民と共にロータリーの100周年を祝った「ロータリー100年子ども音楽祭」です。

各RCの新世代委員長さんを中心に実行委員会を編成し、多くのロータリアンの知恵とお力を頂きました。

「札幌子どもミュージカル」様や「札幌交響楽団」様には特別のご配慮をいただきました。お蔭さまで無事に大成功裡に終えることが出来たと自負しております。

久しぶりに第4・第5グループ札幌市内のロータリアンの共同事業でした。この行事をNHKや道新で事前に告知され、開催の翌朝にはNHKで放映されるなどロータリーの広報活動にも効果があったのではないかと思います。

この事業を成功裏に終えることが出来たのも実行委員皆様のご努力や企業や個人の特別寄付金など各RCを挙げ応援していただいた賜物です。心から深く感謝申し上げます。

第4グループは会員増強の当初目標に届かなかったものの地区全体が減少した中純増7名であったこと、クラブ出席率が2510地区内No.1であった事など、ポリオ・プラス、財団寄附等を含め各RCの努力が顕われていると思います。

私自身「ロータリー創立100周年」の記念の時にガバナー補佐をさせて頂き、たくさんの優秀なロータリアンの友達ができ、楽しい1年間でした。

浅学菲才な私に力強いご支援を賜りました沢山のロータリアンの「友情」に心から感謝申し上げます。



100年の重み (1年を振り返って)

第5グループ ガバナー補佐

丸山 淳 士 (札幌真駒内)

運がよいのか悪いのか、ちょうどロータリー100年の時期に当たり、各RCを始め第4、第5グループ合同での行事の計画、実施と100年に追い回されていた感じがする。そんなことを言い訳にして、グループ内のRC訪問も手抜き状態で終わってしまった。ガバナー補佐をやってみて、多くの友人に巡り会い、多くの友情に支えられ、大変よかったと思っている。

在籍RC内の出席だけではわからなかったいろいろな他RCの事情や苦勞も知る機会を得たことは大きな収穫であった。

多人数のRCは他から見るとうらやましいと思い、少人数のRCは消えゆくのではないかという思い上がった考えも消えた。

大所帯はそれなりの苦勞があり、少人数でも希望に燃えた会員の活動は輝いていた。

まさに、ロータリーモザイクの世界を実感し100年続いた実績と、これからも永遠不滅の存在たることを確信した1年であった。



この1年をふりかえって

第6グループ ガバナー補佐

関 幸吉 (倶知安)

ガバナー補佐に任命されて間もなく1年、終局を迎えようとしています。

この1年間をふりかえってみて、ガバナー補佐として、私なりに色々とロータリーについての知識、現在の状況、またロータリアンとしての使命感について研鑽させて頂きました。また第6グループ内に於きましても、ガバナー補佐としての職務として暗中模索では有りましたが、私なりに任務を遂行させて頂きました。ロータリーが創立されて100年と言う永い歴史、また更なる未来に向けての様々なプロジェクトの推進など、今後の活動に於いても大きな期待を望んでいる次第です。

またグループ内各RC活動に於きましても、先輩諸兄の業績を基に、その歴史を継承し、地域に密着した活動を展開されており、この事は非常に意義ある事と思います。しかし其の反面、各RCに於きましても、なにかと苦勞も有り、更に改善していかなければならない諸問題も挙げられます。

先ず大きな問題としては、RC会員の大幅な減少で有ります。この事は今後の大きな課題であり、如何にして会員の拡大を図るか、今後この事を真剣に考えなければならない重要課題で有ろうと思います。

私はグループ内各RCの会長様に、RC会員の増強に対して、大いに力を入れて頂く様お願い致しますと共に、グループでの最重要課題として提唱して参りました。

より多くの会員で、より大きい活動が出来る事を願望致している一人です。

現在の社会情勢は、非常に厳しい情勢下で有りますが、会員増強に付いては避けて通れない最優先課題で有ると痛感致して居ります。グループ内各RC様には、会員増強運動にはかなり力を入れ推進して頂きましたが、非常にご苦勞をお掛けした次第です。今後も更に会員増強に力を入れて頂き、更にRCの活

性を図って頂きたいと思います。この1年間第6グループに対しましてのご厚情、ご支援を賜りました事に厚くお礼申し上げます。本当にお世話になり有難う御座いました。



この1年をふりかえって

第7グループ ガバナー補佐

大谷 恵一 (北広島)

一昨年の12月、ガバナー補佐の指命を受け、不安の内に2月から各種研修会議が始まりました。7月からは会長幹事会・クラブ訪問等、緊張の連続で地区大会が終わった頃やっと落ち着いた様に思います。その後は多くの人に助けられながら、100周年事業等を行い、終ってみればあつという間の1年半でありました。今はホッとすると同時に、地区リーダーシッププランにおけるガバナー補佐として、ロータリーのお役に立てたのか反省しております。

しかし、私個人にとっては、またとない貴重な経験をさせて戴きました。特に各RCの例会や行事に参加したり、活動計画書や決算書を読み説明を受けた事は大変勉強になりました。それぞれの特徴あふれる活動はロータリーのすばらしさを教えてくれました。そしてもちろん一番楽しかった事は遠藤秀雄ガバナーを初め地区役員、第7グループの会長・幹事、そして同期のガバナー補佐の皆様に出会えた事です。奉仕の機会として知り合いを広めることの喜びを、十二分に感じました。

これからも、多くのロータリアンと出会い、ロータリーの道を歩んで行きたい。



1年をふりかえり 新たな一歩を

第8グループ ガバナー補佐

蘇田 又栄 (浦河)

光陰矢の如しと申しますが月日の過ぎるのは誠に早いもの、ガバナー補佐任命書を戴きその任務と立場を十分理解しないま

まのスタート、今改めて振り返ってみますとあっと言う間の1年でした。

この間、地区大会は勿論合同例会並びにグループ内各RCの親睦を深めることを目的とした、「おじゃましーす例会」の開催と、多くのロータリアンの協力を得ながら無事終わることが出来ました。また、本年は国際ロータリー創立100周年と言う意義ある年でもあり、各RCにお願ひしそれぞれの発想により、家族と祝う記念例会の開催、町民と共に祝う記念コンサートの開催、交通安全を願ひ交通安全啓蒙公告塔の設置、老健施設・図書館への特別寄付など、記念事業に相応しい行事を実施して戴くことが出来ました。

先人が幾多の苦難を乗り越え築き上げた100年の歴史の重みを大切に、いま我々はロータリー第2世紀に向け新たな一歩を踏み出します。

あるロータリアンがロータリーは理想を追うだけでは駄目、現実を見据え行動することが大切と言われておりました。私もそのとおりと思いますが現実はまだまだ課題が多いように感じます。

しかし、このままではロータリーのよりよい発展は望まれません。ロータリー第2世紀を機会にロータリアン一人一人の意義を高め「超我の奉仕」に取組もうではありませんか。



ロータリー100年祝賀の年

第9グループ ガバナー補佐

鈴木久雄(室蘭東)

遠藤ガバナーから、グレン・E・エステスRI会長のテーマは「ロータリーを祝おう」であるとの報告を受け、胸に着用する『CELEBRATE ROTARY 100years』のバッチを頂き、1年間着用することになった。1905年2月23日にロータリーの最初の例会が持たれてから100年間の月日がたち、現在迄の歴史を振り返ってみる絶好の機会であり、RI100年記念国際大会が6月17日から22日迄シカゴで開催された。

ポール・ハリスの足跡を訪れて感銘を受けた会員も多いと思う。当第9グループでは、室蘭東RCの例会日が2月23日に当たっていたので、グループ内の6RCが家族同伴で当RCの

例会場に集まって祝賀会を行った。米山奨学生・インターアクト・ローターアクト・財団学友会の方々も参加されて話がはずみ、ロータリー活動の基本である奉仕の理想に結ばれた者同士の楽しい集まりであった。6RCの各会長さんの宴会での出し物は、100年に1回だからやると意気込んだもので、長く想い出に残るものであった。

7月に次期へのバトンタッチを終えて100周年記念のバッチを外し、次の100年に向けての第一歩を踏み出して心の重荷を下ろした気分になった。この特別の年度に出会えたことは、本当に幸運であったと思う。



この1年をふりかえって

第10グループ ガバナー補佐

加藤直樹(七飯)

1年間ガバナー補佐を努めさせて頂きました。

術後すぐ、体調不良のまま新年度を向かえ、どうなるかと不安を感じながらのスタートでしたが、あっと言う間の1年でした。至らない点多々あったと思いますが皆様には大変ご迷惑をおかけしたことと思ひますがここでお詫び申し上げます。

今年度のRIテーマは「ロータリーを祝おう」。函館RCの70周年、国際ロータリーの100周年を函館北、上磯、函館亀田、七飯RCが合同例会でもてたと言うことは非常にうれしいことでした。

又、森RCの観桜会、七飯RCの観月会と第10・11グループは和気あいあいとすごさせて頂きました。

あらためてロータリアンとしての自覚及びすばらしさを実感いたしました。

遠藤ガバナー、そして第10、11グループの会長、幹事、そして会員の皆さん大変お世話になりました。心より感謝を申し上げるしだいです。



今年度を振り返って

第11グループ ガバナー補佐

吉川 達也 (函館東)

ようやく任期を終えホットしたと言うのが本音である。就任の挨拶文で「友愛の心を通してパイプ役に」と書いた、果たしてどうだったのか？複雑な心境である。

よくロータリーは人生の道場であると常々聞かされているが、まさか身をもって様々な問題を体験するとは夢にも思わなかった、しかし価値ある経験を同時にさせてもらいました。

ロータリークラブとは、ロータリアンとは、今一度原点に帰って見つめ直すことが自分にとって今後の課題ではないかと思えます。

第11グループは第10グループと連携をとり、なおかつ常に融和を計りながら行動をしており100周年の合同例会等まさにそれであり、第10グループ加藤ガバナー補佐には諸問題についてお世話になり感謝申し上げます。今後様々な問題等がおこった場合、地区とRCの距離はどうなるのだろうか？あまりに温度差があるのではと危惧するのは私だけだろうか。

多くの人との出会いそして会員減少に悩みつつ各RCそれぞれに真摯に計画に取り組み、切磋琢磨して地域に貢献しロータリーの灯を消さないように一生懸命活動しております。このような素晴らしいRCの協力のお陰でガバナー補佐の任を終える事に感謝と御礼を申し上げます。

最後に遠藤ガバナーにはいろいろご迷惑をおかけした事、心よりお詫びを申し上げます。また代表幹事はじめスタッフの皆様、ご苦勞様でした。

1年間ありがとうございました。

合掌



親睦と友情に感謝して

第12グループ ガバナー補佐

藤澤 正昭 (苫小牧)

ほんの一滴の露から始まった奉仕の世界が100年の年月を経て、これほどの大河になろうとは何人も想像できなかったの

はないでしょうか。ひとつひとつの献身と努力の積み重ねがいかに大きなものになっていくことを強く教えられました。国際ロータリーは、いまや166ヶ国、120万の会員というとてもつもない組織となりただ驚くばかりであります。これだけの大きな奉仕団体が100年もの長期間、献身的な奉仕活動を続けてまいりました。この節目に巡りあいロータリーの会員として誇りを持って創立100周年を祝うことができましたことを幸いに思っております。

グレン・E・エステスRI会長の選んだテーマは「ロータリーを祝おう」であります。RCで、職場で、地域社会で、そして国境を越えてロータリーを祝うことを提唱いたしました。RI会長は100周年の三大目標をかかげ絶大な協力を求めました。①ポリオ・プラス、②会員増強、③財団支援の3つでした。

また、遠藤ガバナーは次の強調事項を示しました。①識字率の向上、②ロータリー家族、③保健、④水の4つの項目であります。

RI会長の三大目標、遠藤ガバナーの強調事項を実行するために会長・幹事会を開き目標達成に励みました。ここに、当第12グループの会長、幹事、会員の皆さんに満腔の感謝を申し上げます。2005年2月23日の100周年記念合同例会は忘れがたい思い出となりました。



この1年間を振り返って

～地区委員会～



この1年を振り返って

ロータリー 100周年記念委員会

委員長 岩城 秀晴 (札幌南PG)

02年の小林年度より100周年記念委員長を命ぜられ3年間に亘って100周年記念事業をどうすれば良いかを思考しその実践に至るまでに委員の方々には大変な御苦勞をおかけ致して行事内容を搾りこんで参りました。ロータリーは100周年を区切りとして2世紀に至る橋渡しの事業を進め、後世に残ることを地区にとって何が大事かを進展させることとして種々の仮設テーマを上げて委員会に図って参りました。その結果、当地区にはこの事業遂行に当っては予算づけはありませんでしたが、会員の減少を見ている今日的な問題はあってもこれを克服して実行するのも必要な事と考えました。それによりまして、次の項目を実施して見たいと思ひましてその実施を肅く肅くと計画をしました。以下のとおり。

その1 他地区との姉妹締結を致します。

これを10月16日の地区大会において韓国第3700地区と締結を致しました。

その2 ロータリーの国際的奉仕活動として米山奨学生に札幌雪祭りに出動して自国の方々に通訳と云う奉仕活動をして国際奉仕に貢献して戴きました。

その3 ロータリーの創立記念日である2月23日には地区のRCが一斉に例会を開催して100周年の意義を深めました。

その4 社会奉仕として青少年に文化的な行事を札幌市内全RCの主催による、子供音楽祭を札幌市の音楽堂であるキタラで、3,500名の参集を得て開催致し、新聞で大きく採り上げてロータリーの社会貢献の評価をして戴きました。

その5 最後は、国際ロータリーの国際大会において、北海道ナイトを実施して2500地区と当地区の参加人員107名が参

加して大いにシカゴにおいて懇親会を開いて楽しみ、明日への夢を語り合いました。又、ロータリーの本部であります、エバンストンに地区の方々と訪れたり、ハリスの墓地へ行きましてハリスの墓前でロータリーを大いにその精神を汲み取って参りました。最後にハリスが居住していた「カムリーバンク」を訪れてハリスの生活を深く忍び、われわれの精神にも分霊となって今後のロータリーに対する考えも大きく変化するのではないかと思われました。

この1年を振り返って

意義有る業績選考委員会

委員長 岩城 秀晴 (札幌南PG)

100周年を祝うために、RIでは、25年以上にわたりRCに所属し、RCとロータリーの理想に対して、確固たる支援を与え続けてこられたロータリアンを「奉仕への貢献に対する表彰」の制度を創設されまして当地区から5名の方が表彰されました。この表彰された方々はガバナー補佐から伝達されたとは思いますが、今後とも益々御精進されますよう御願ひ申し上げます。

表彰された方々は

赤平RC	西沢良知氏
札幌モーニングRC	近藤良一氏
三石RC	佐々木初之助氏
函館RC	亀井敏清氏
苫小牧RC	山下正氏



オン・ツー・シカゴ委員会

オン・ツー・シカゴ委員会

委員長 小林 博 (札幌北PG)

オン・ツー・シカゴ委員会は出来るだけ沢山の地区ロータリアンがロータリーの国際大会に参加しようと呼びかけることを狙いとした委員会である。そのための委員会を2度開催したがほかに電話・メールなどで委員相互に連絡を密にしながら各RC会員の参加を要請した。

幸い今年はロータリー開基100年にあたり、しかもロータリー発祥の地シカゴにおける開催とあって、いつもより沢山の参加があった。個人の自由参加もあったので正確な参加人員は掴み得ないが、恐らく100名余の参加が2510地区からあったと考えられている(参考まで全世界から42,000人の参加があったとのこと)。

100年記念ということのほかにもオプションツアーを2セット設けたことも参加の促進に役立ったようだ。大会参加とは別にシカゴ郊外エバンストンのR Iセンター、ポール・ハリスの眠る Mount Hope Cemeteryの訪問、またポール・ハリスの長く住んだ住居 Comely Bank を訪問する機会もあったし、さらにシカゴ運河からシカゴ市内への代表的建築美を目の前に堪能したり、またミシガン湖遊覧などのオプションを楽しむことができた。

しかも多くの地区内ロータリアンが1つのホテルにまとまって宿泊できたのでお互いの交流、親睦を深める絶好の機会となった。ホテル自体も比較的快適で、大会会場のマコミックプレイスにはタクシーでの往復となったが比較的便利なところであったし、何より全員事故も無く無事に帰ってこられたのは最高の幸せであった。

なお、北海道ナイトは同一ホテル内にて2500地区との合同開催となったが、この企画、設営等は地区100周年記念委員会委員長の岩城秀晴PGのご尽力に拠るところが大きかった。またR I本部、Mount Hope Cemetery、Comely Bankの訪問には塚原房樹GEから懇切かつ詳細なご説明をいただいた。また遠藤秀雄ガバナーはじめ地区ロータリアン各位、並びにご家族にも絶大なご理解ご協力をいただいた。併せてご参加のみな様に心からの御礼を申し上げたい。



2004-2005年度R I第2510地区 文献資料室活動報告

文献資料室委員会

委員長 板橋 俊 (札幌幌南)

当委員会の主な任務は、ロータリーの情報源であります、貴重な資料・保管・収集をすることであり、年度当初の活動計画に基づき、実施することができました。

主な活動のひとつとして、国際ロータリー100周年を記念して、ビデオ『ポール・ハリスの足跡を訪ねて』および『最初は一つだった』を、地区内にて販売致しました。

また、各強調月間には、関連ビデオの貸し出し、新たな文献資料の調査と収集を行いました。

100周年記念ビデオ販売数	13本
貸し出しビデオ数	59本
新規ビデオ購入数	15本(7種類)

ビジュアルなビデオ等がRC例会やフォーラム、各種委員会でよく理解されますので、新しいものを各種15本購入致しました。各RCにご案内をして活用いただくようにしたいと考えております。

委員会開催状況

- 第1回 7月28日『新年度活動計画ほか』
- 第2回 9月13日『ビデオ販売・地区大会の件』
- 第3回 5月24日『活動状況報告・次年度に向けて』



2004-2005地区 クラブ奉仕委員会の1年間を振り返って

クラブ奉仕委員会

委員長 羽部 大仁 (札幌幌南)

本年度の活動計画に基づいて委員会活動を実施した。振り返ると反省点も多いが、次年度に引き継ぎたいと考えている。その中で地区のホームページにクラブ奉仕について掲載し、会員増強と親睦プログラムに関して紹介した。

1. 地区委員会では、第3分科会(クラブ奉仕部門)を担当し、次年度に向けてクラブ奉仕の重要性を強調した。

2. 委員会を適宜開催した。富原カウンセラー(PG)に参加戴き、各委員の質問には気軽にお答え頂きご指導を願った。
3. 地区のホームページにクラブ奉仕に関して、会員の退会が地区内各RCの悩みになっている昨今、会員増強に成功した事例を紹介し、又新しいプログラムで、楽しい例会も紹介できた。今後は更新について考えたい。
4. クラブ奉仕の重要性と題して、札幌モーニングRCの例会で卓話を行った。又長沼RC例会でロータリー100年を祝って卓話を行った。
5. 各委員には、急な案内にも笑顔で参加して頂き、熱心な意見交換に時間が足りなかった。次年度も是非このムードで充実した委員会活動を期待したい。



ロータリー創立100周年を迎えた 職業奉仕について

職業奉仕委員会

委員長 富岡 公治 (札幌西北)

1. ロータリー創立の原点であり基礎的根幹である職業奉仕
ロータリーの創業者であるポール・ハリスのロータリー創立の動機は、異なる業種の実業家と職業人の交際と相互扶助の輪を形成することでした。
2. 職業奉仕の理念の誕生
「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物でもない。それは古くから存在する一道德観念の現代生活におけることに実業職業生活における実践に他ならないのである」これはポール・ハリスの『ロータリーの理想と友愛』の一節であります。
初期のロータリーは相互扶助という会員同士の知己の追及でありましたが、後にハリスは「相互扶助の観念は一般的奉仕の観念に世を譲った」と理念の止揚がなされました。
しかし、この相互扶助の制度にロータリーの奉仕の原点、なかんずく、職業奉仕の原点であると考えます。
3. ロータリー創立100年を経ても、ポール・ハリスをはじめとするロータリー創始者の理念は確固として永遠に守り抜かなければならないと考えます。

遠藤秀雄ガバナーは各RC公式訪問スピーチにおいて、本

年度のアナハイムのガバナー研修においてラタクルRI元会長とグレン・E・エステス現RI会長がロータリー創立100周年の今年こそロータリー創立の原点に立ち返り、職業奉仕の理念をロータリーの根幹として高く掲げなければならないと強調している旨を語られました。真に心強い限りです。

4. 地区職業奉仕委員会は、地区協議会の席上及び10月職業奉仕月間において、職業奉仕がロータリーの根幹をなすものであり、これは100周年を迎えた現在全くの価値は不変である旨広報活動に努めました。

そして、地区職業奉仕委員会自体の活動として、平成16年11月30日室蘭東RCの芝垣美男会長に「市民に役立つ法律講座」として市民講座を開催致しました。



社会奉仕活動は地域と ロータリーを結びます

社会奉仕委員会

委員長 対木 正文 (札幌西)

社会奉仕活動は、ロータリアンひとり一人が「超我の奉仕」を実証するすばらしい機会です。そして、地域のニーズに答えた奉仕活動は、RCが実施できる最もやりがいのある活動の一つでもあります。

年度始めに社会奉仕、家庭奉仕、子ども奉仕委員会合同の、RC社会奉仕委員長様を対象とした「社会奉仕に関する意見交換会」を地区内4ヵ所で開催しました。お世話いただいたRCに心から感謝申し上げます。

この意見交換会を通し、年度始めに他のRCの奉仕活動を知ることにより地域社会が真に求めている奉仕活動をより幅広く模索し、活動のマンネリ化を防ぐ助けとなりました。そして、RCが抱える諸問題について多様な意見や悩みなどが率直に話されました。私は会員減少の中で地域に密着した素晴らしい社会奉仕活動をしているRCに心から敬意を表すると共に、RCの目線に立って各RCが活動しやすいように情報を提供し、サポートすることの大切さを再認識いたしました。

今年度は、各RCのご協力得て2003-2004年度に実施された「社会奉仕活動一覧」を写真入りで作成いたしました。この冊子を活用することにより各RCがより地域に密着したプロジェ

クト選択に役立つと共に、ロータリー活動の一部を広く社会に知ってもらい、会員増強の一助になることを願ってやみません。

この1年間、ガバナーを始めガバナー事務所のスタッフの方々、ガバナー補佐の皆様、RC会長様、RC社会奉仕委員長様、そして、地区社会奉仕委員の皆様にご世話になりました。ありがとうございました。



地区家庭奉仕委員会 活動報告

家庭奉仕委員会

委員長 和田 壬 三 (札幌南)

1. 地区の活動

1. 家庭奉仕活動実践のマニュアルの作成

3年間の活動の経験を踏まえて、家庭奉仕に関する取り組みの指針になるマニュアルを作成しました。完成版とはいえないものの、現状で可能な家庭奉仕活動についての問題点について網羅したものです。

2. アンケート調査の実施

昨年度に続き、各RCの取り組み状況についてアンケート調査を実施しました。

総じて各RCともに、家庭奉仕活動に今取り組まなければならないという問題性に対する理解がされていないという状況にあることが分かりました。

3. 親業訓練入門講座実施の呼びかけ

札幌北RCが応えてくださり、2月1日から3週間にわたり、実施しました。参加者は、一般の方を含めて延べ約60名で大変有意義であったと好評でした。

2. 各RCの活動

1. 札幌南RC創立40周年事業

児童養護施設の子供たち…現状理解と将来支援

現実には、崩壊した家庭の虐待児童を受け入れているのであり、子供たちの幸せの為に、家庭の機能の回復が必要である事を痛感した内容でした。

2. 千歳RC創立35周年記念事業

夢、未来、子供に期待するもの
子供を育むためのシンポジウム

3. 小樽南RC創立45周年記念事業

子供の本の必要性——今なぜブックスタートか



本委員会担当活動の 発展を祈る

子ども奉仕委員会

委員長 米山 道 男 (札幌北)

本委員会は、「ロータリークラブの会員が小中学校に出向いて授業をする」、「小中学生を会員の職場に招いて職業体験をしてもらう」、この二つの活動を促進するために設けられました。

これは、経験豊かな会員が自らの職業を通して奉仕活動しようとするもので、会員に極めて相応しい活動です。また、子ども達にとっては新しい世界を知って将来への夢が膨らむかも知れませんが、会員にとっては子ども達の素晴らしい感性に触れて自分や社会を見つめ直す契機になるかも知れません。

本委員会は、小林ガバナー年度に企画され、佐藤ガバナー年度に正式に発足しました。以来、小林・佐藤・遠藤3ガバナーの温かい指導に励まされ、また委員の皆さんに協力していただきながら、今日まで活動してきました。

本委員会がこの間にしてきたことは、この活動を広く会員の皆さんに理解していただき、できるだけ多くの会員に協力していただくことでした。その「協力会員名簿」が難産の末ようやく出来上がろうとしています。また、一部の学校では、実際に会員による授業が実施され好評を博しました。

地区の方針変更により、本委員会は遠藤ガバナー年度を以って廃止されることになりましたが、本委員会の活動の重要性に鑑み、次年度は、親委員会である地区社会奉仕委員会の中に子ども奉仕担当委員（三澤龍子委員と石黒直文委員）が配置されています。今後は、「協力会員名簿」を有効に活用してこの活動が大きく発展することを、子ども達と会員諸兄姉のために心から願っています。



国際奉仕活動を巡って

国際奉仕委員会

委員長 橋本信夫 (札幌西)

最近の国際社会は経済危機、テロ事件、宗教・民族対立、貧富差、麻薬、エイズなどきわめて不安定な状況にある。しかし個人も地域も国境を越えた広い視点さえ持てれば日常生活を通して平和につながる様々な国際貢献を成し得るものである。

地区の国際奉仕事業には友好親善と人道支援の2つがある。今年度は地区100周年記念委員会によって韓国R I 3700地区と姉妹提携プログラムが締結され、ロータリアンの交流を通じて国際親善活動が推進されることとなった。これは親睦活動委員会から改組された国際友好委員会に引き継がれ、世界を結ぶ親善交流事業のモデルとして大きく進展するものと思われる。

また、WCS委員会はこれまでアジア諸国を対象に数々の人道的支援プログラムを実施してきた。今年度はRC申請によるフィリピンのスラム改造計画(札幌西RC)、タイへの中古救急車寄贈(滝川RC)、ネパールの学校整備(江別RC)、またWCSによる「スマトラ沖大震災救援」書き損じハガキ回収事業などが会員、RCや委員会の熱意で見事に結実した。

当委員会はこれらの国際奉仕事業に対する会員・RCの理解を深め、地区を挙げて国際貢献に取り組めるよう努力している。



「この1年をふりかえって」

世界社会奉仕委員会

委員長 斎藤修弥 (室蘭)

この原稿の執筆は小生にとって感慨深いものがある。WCSの何たるかを何も知らずに、無謀にも委員長をお受けしたツケの報いは、その翌日から始まったと言っても過言ではない。そんな小生でも兎にも角にも6つの事業を実施して年度末を迎えられたのは、偏に橋本信夫国際奉仕委員長、WCS委員会委員をはじめ、多くのロータリアンのご支援のお陰と心から感謝している。とりわけ滝川RCの中古救急車寄贈にあたって、対木

正文社会奉仕委員長に仲介の労をとっていただいたご好意は、お礼の言葉もないほど感激している。また、当委員会の出村知佳子副委員長には豊富な経験と、素晴らしい語学力を駆使して、困難な交渉を一手に引き受け事業を達成してくれた事に、心からお礼申し上げたい。

一方、年度の間でスマトラ沖大地震が発生した。そのため急遽支援の書き損じハガキ、未使用テレカの回収事業を展開したが、各地RCの全面的な協力により多大な成果を挙げられた事も印象深い。この場を借りて全RCの皆さんに心からお礼を申し上げたい。その反面、委員会事業としては反省すべき点多々認められる。WCS事業の申請がまだ少数に止まっていることから、次年度はより積極的な啓蒙運動を心がけると共に、事業の検証も兼ねて現地調査を行いたいと計画している。次年度もより有意義な世界社会奉仕事業が、地区内RCの協力を得て数多く展開出来ることを期待している。



クラブ奉仕に主体を置きすぎる、わが国の活動

親睦活動委員会

委員長 雲津忠宣 (伊達)

2002年からRIプログラムに加えられ、その活動は国際的に認められた活動として多くのロータリアンがクラブ奉仕とは別に、何らかの親睦活動に所属して、多くのロータリアンと交流を深めながら、幅広い活動を展開する事を期待した。

その為にロータリアンの「趣味親睦活動」や「職業別親睦活動」の充実を図りました。

2510地区に事務局を置く親睦活動の代表的な会である「ロータリーの歴史と伝統の会」と「囲碁同好会」について、委員会に代表者の参席をお願いして、現状の活動の把握を行ったが、広く地区内に参加者の幅を持たせる事は非常に困難な事でした。

「ゴルフ同好会」については、毎年北海道での開催をG月信などを通じてPRに努め側面からの支援をおこなった。

新設されるRIが承認する「親睦活動」はあいにく無かったが、地区大会に連動して「囲碁同好会」の主導により囲碁大会が開催された。「ロータリーの歴史と伝統の会」の活動内容の

ひとつに、最初の例会場所「711号室」の保存、P、Hの墓地整備などの活動の輪を今ひとつ広げられなかった。

地区大会当日、韓国R I 3700地区と2510地区が姉妹提携をして地区対地区の第一歩を踏み出したが、これに対して親睦委員会としては対応が地区対地区のケースから今後具体的な会員間の「親睦活動」が生じる事を期待したい。

R I 大阪大会には多くの「親睦活動」が出展し、会員の拡大を図っていたが、ロータリー活動のRC主体の活動とは別の活動がそこには存在しており、この委員会の重要性を感じるとともに、日本のロータリアンは今以上の国際性を追及し世界から信頼と敬愛される国民となる事を願いたい。



この1年を振り返って

拡大委員会

委員長 遠藤正之(札幌南PG)

昨今ロータリーは極端にメンバーを減らしています。諸環境の変化の原因とでも云えるかも知れません。しかし会員増強・拡大はロータリーの重要な課題の一つなのです。

今回道南の函館地区が行政の市町村合併(一市三町一村)により中核都市になることが決定しました。

もしこの地区に新しいRCの設立が可能であれば…。諸事情を調査した結果、可能と判断し、新しいRCの結成の諸準備を整え過日遠藤秀雄ガバナーに「新RC結成調査書を提出致しました。新RCのメンバー(20数名)スポンサーRC(函館RC)特別代表亀井敏清(函館RC)も決り5月16日にR Iに書類が受理された」と聞いております。

新年度早くに塚原房樹ガバナーのもとに新2510地区73番目のRCとして新RC創立のチャーターナイトが開催されるものと思います。

今後は新しいRCとしてロータリーの仲間入りをする事になります。どうぞやさしくその豊かな成長を見守って頂きたいと思っております。

この1年を振り返って

ロータリー財団委員会

委員長 遠藤正之(札幌南PG)

ロータリー財団委員長という大変重い役を引きうけて本年度の任期を終えました。皆様の御協力に感謝申し上げます。

当地区の財団委員会は皆様御存知の通り「国際親善奨学金委員会」「GSE委員会」「財団学友委員会」「補助金委員会」の小委員会からなっております。各小委員会からは詳しい報告があると思いますが、小委員会は各委員長・委員の御努力と皆様の御協力と御理解により立派な実績を残された様です。

しかし、財団寄付についてはエステス会長のテーマ「あなたも毎年100ドルを」を機会ある毎に皆様にお願ひ致しましたが経済不況が影響したのか、私の努力がたりなかったのか、又財団に対する殊に寄付に対する認識不足なのか、地区全体でみると目標をクリア一致しましたが、個人RC別にみると不満足点があると思われまます。

地区の目標額314,000.00ドルに対して6月30日現在318,250.77ドルです(1人あたり101.48ドル)。残念なことに1人あたり0ドルのRCが1RC、50ドル以下3RCでした。しかし41RCで1人100ドル以上の寄付をいただけました。目標を達成し、多額の寄付をして下さった会員に敬意を表します。

明年は会員100ドルをお願いしたいと思います。

又ポリオ撲滅募金については、本年でその募金活動は終わりにりましたが、(02年6月~05年6月)3年間で目標1人150ドルに対して、当地区はDDFの5000ドルを加えても1人89.66ドルで非常に低調に終わりました。150ドルをお願い出来たクラブはわずか15RC。0ドルのRCは2RCでした。この募金の趣旨からして極めて残念なことと思っております。

又、ロータリーカードの発券もあまり進まず当地区では48枚のみです。

いずれにしても色々の御協力ありがとうございました。

力不足をおわびします。明年度もよろしくおねがいします。



活動報告

国際親善奨学金委員会

委員長 瀧川 哲夫 (札幌手稲)

04-05年度は地区委員と奨学生との交流を深め、特に派遣奨学生にロータリー活動を多く知ってもらい、留学先での親善活動に活かすように努力した。

(目標) 04-05年度では、次の目標を掲げて事業をおこなった。

1. 奨学生候補者に対するオリエンテーションの充実
2. 奨学生候補者と地区委員のためのメーリング・リスト開設による情報交換開始
3. 06-07年度募集における、応募時からの英文申請書提出開始
4. 奨学生候補者に対する地区行事への参加要請

(成果) 以上の目標実現の努力によって、以下の成果があがった。

1. オリエンテーションについては、留学に至るまでの手続きに関するQ&Aを作成するとともに、宿泊を含めた3回の研修をおこなった結果、ロータリー活動への理解、財団への申請書提出、渡航手続きへの理解が進んだ。
2. メーリング・リストを作成し、常時、奨学生候補者への連絡ならびに指導をおこなった結果、1年間で奨学生、委員から500件近いメールが投稿され、相互理解と親睦がおおいに深まった。
3. 06-07年度応募申請書類を応募時から英文で用意させた。これは応募者の意気込みをはかることであり、また、合格後の英文申請書記入が容易になるためである。その結果、高いレベルの応募者ばかりとなって、当初の目的は達成できたと言えるが、その一方で、応募者総数は05-06年度22名から12名に減少した。今後の課題である。なお、今回から、面接選考委員として地区委員の他に地区役員(ガバナー、財団委員長等)に参加を依頼して選考した。最終合格者は7名(文化研修生5名、1学年度奨学生2名)となった。
4. 地区行事として、RYLAセミナー等への参加を要請して、積極的な参加が実現できた。また、公式なオリエンテーションの他に、委員と奨学生との交流を深めるオリエンテーション・プラスを実施し、その中ではロシアからの奨学生との交流も実現した。

(今後の課題)

上述の応募時の申請書類提出については、文化研修生応募には日本語で可とする方向で検討している。また、推薦RCによる事前面接がおこなわれていない場合があったことについては、今後、推薦する予定のRCに強く要請していく予定である。世界平和奨学金の募集については、05-06年度にあらためて検討する。



この1年を振り返って

研究グループ交換委員会 (GSE)

委員長 山名 善久 (札幌幌南)

今年度は、当地区として2回目のアジア地区3350地区(タイ・バンコクを中心とした地区)からのGSEチームメンバーを2004年10月4日~31日までの28日間受け入れました。俱知安RC、上磯RC、留萌RC、札幌幌南RCの4RCが受け入れ世話RCとしてお世話していただきました。各グループのガバナー補佐の皆様、受け入れ世話RCの皆様、各コーディネーターの皆様には絶大なご協力をいただき、受け入れ事業は大成功に終わる事ができました。この事業に関わられた皆様方の献身的なご努力に深く敬意を表しますと共に厚くお礼申し上げます。このGSEプログラムは地区内多くの会員の皆様のご理解、ご協力により広く認知されてきたのではないかと思います。GSEプログラムは短期間で極めて大きな効果を地域に、地区に、若者に、そして私達に与えてくれます。

今後、GSEプログラムを通して若者の育成、国際親善、そして特にアジア地区に対しては日本に対する理解がより一層深まる事を期待します。私はGSEプログラムを手掛けたこの1年間、多くの方々と知り合い、友情を深める事ができました。GSEプログラムに感謝です。

1年間お世話になり、ありがとうございました。



「財団学友会を 再認識された1年」

財団学友委員会

委員長 山崎 晴 嘉 (札幌西北)

財団学友会が発足5年をむかえ会員数300名に達しております。学友は多方面で活躍し、ロータリーに対し理解と積極的な協力を行っております。

- (1) 地区大会記念フォーラムの企画、実施を遠藤秀雄ガバナーから依頼され学友との連携で実施し、各ロータリアンからの評価は高いと自負しております。
- (2) 各RCからの学友の卓話依頼も増え、何れも好評を得、これにより理解の浸透が図られたと思われまます。
- (3) 派遣予定国際親善奨学生へのオリエンテーションに参加し、体験等のアドバイスをした。
- (4) 学友会総会を開催し学友委員会全員が参加し、学友が再度ロータリーへの理解を深める支援を行うと共に、一層の交流を深めた。
- (5) 学友会ニューズレターを地区大会時に学友会ブースでロータリアンに配布した。

財団学友会の活動もロータリアン、地区関係者に加え学友委員会の支援、協力の下、活発になり各ロータリアンから再認識された1年であったと思われる。



1年を振り返って

補助金委員会

委員長 伏木 忠 了 (札幌西)

前任者の転勤により、突然補助金委員長の任を与えられ、最初は補助金委員会の内容が複雑で理解に時間を要し、ガバナーや財団委員長のご指導に加え、補助金委員の皆さんのご協力で何とか努める事が出来、大変感謝しております。

地区補助金、同額補助金、個人向け補助金、の申請から審査、承認、事業完了報告書の提出迄で苦勞をいたしました。その経験の中から感じた事を記したいと思います。

1. 申請基準やスケジュール、地区としてのルールもまとめる事が出来、これからはスムーズに作業が流れるようにと願っております。
2. ロータリー財団に寄付するだけでなく、奉仕活動に大いに補助金を活用して頂きたいのです。財団の寄付が、どのような奉仕事業に活用されるかを知って頂く事が財団寄付増進に繋がると思っています。
3. 地区社会奉仕委員会、地区世界社会奉仕委員会との連携、或いは、補助金委員会委員に加わって頂く事が望ましいと感じています。その事によってロータリーの原点である奉仕活動を行う際に、RCや地区で資金が足りない場合D.D.F（地区活動資金）、W.F（国際財団活動資金）を上手に活用する事で一層大きな奉仕活動が可能になると思っています。
最後に地区委員に携わって、多くのロータリアンと交流を深められ、トルコ、スリランカ、フィリピン等訪問出来た事も良い経験となりました。ありがとうございました。



有効な補助金の活用を

補助金監督委員会

委員長 菅原 耕 治 (札幌北)

当委員会は、補助金委員会への各RCからの申請書類をもとに、DSG（地区補助金）の監査・報告が責務ですが、地区補助金委員の「基準づくり」が明確となり、大変助かりました。今後も地区内各RCからの有意義なプログラムに、DSGが効果的で有効に活用される事と思います。DSGに係る財団・補助金両委員会の熱心な審査や、RIへ提出する報告書の作成など、1年間大変ご苦勞されたことと実感しております。両委員会の皆様とガバナー事務局のご協力に感謝しております。



新世代は貴い ロータリーファミリーです。

新世代委員会

委員長 細川好弘 (静内)

「ロータリーの熱意」を新世代に届けられるよう、青少年交換委員会(野澤幸平委員長)、インターアクト委員会(堀田昌資委員長)、ローターアクト委員会(柳幸一委員長)、ライラ委員会(宮崎善昭委員長)を中心にロータリー100周年に相応しい新世代プログラムが推進されました事は、ホストRCはじめホストファミリー、関係各位、ロータリアンのご理解あるご支援のおかげと心より感謝をいたしております。

世界平和を目指すロータリーに、地域への奉仕、国際理解プログラムや各種交流、親善使節として実践されております青少年交換等を通じて、奉仕の楽しさや喜びを伝えてくれます。

地域社会にあって将来指導者となる素質を持ち、社会の発展に貢献しようと志向する若い仲間と共に、自ら考え体験されたことを広く地域に、世界に寄与されるであろうことを期待いたします。

遠藤ガバナーの率先新世代プログラムへの参画、ご指導を賜りました熱い新世代への視線は、ロータリーファミリーとしてのプログラムが不滅であることを印象づけてくれた年度でもありました。



思いやりと 奉仕の楽しさに感動

インターアクト委員会

委員長 堀田昌資 (札幌東)

区内11高校-10のインターアクトクラブの顧問教師の熱心な指導のもと、高校生に思いやりと奉仕の楽しさと感動を共有する支援プログラムを担当する1年間でした。

8月は第2800地区(山形県)のインターアクター14名が来道、北海高校(交流会場)インターアクター25名、札幌龍谷学園高校2名が受け入れ準備・運営。ボランティア活動の発表と情報交換・友情を深める素晴らしい機会となりました。8

/1~8/5韓国・木浦市『共生園』への訪問交流とソウル市内で文化・歴史資料館の見学。国際交流と親善推進のプログラムに9校17名、引率教師9名、ロータリアン2名参加。近くて遠い国、韓国の人々とのふれあいは、参加高校生にとって、心を豊かにする実り多い体験であったと思います。地区委員会・主要行事には、多忙なスケジュールのなか、遠藤ガバナーに出席を賜り、地区委員一人ひとりに声を掛けて下さり、心から感謝を申し上げる次第です。

ありがとうございました。



成長できた? 1年

ローターアクト委員会

委員長 柳孝一 (札幌南)

この1年間、アクトと一緒にちょっとは成長したかなという1年間でした。いつも問題の各RCの会員増強は、いろいろな場面で、アクトはもちろんロータリアンにもお話をさせていただき、ちょっとは理解をいただいたかなと思っています。

7月の提唱RC委員長会議(札幌)、地区交流キャンプ(岩内)、8月地区セミナー(留萌)、9月ライラセミナー(札幌)、10月ロータリー地区大会、11月ローターアクト北海道交流会(北見)、12月地区協議会(函館)、1月地区温泉交流会(定山溪)、海外研修(オーストラリア、ケアンズ)、3月ローターアクト全国研修会(広島)、4月札幌南RAC創立30周年(札幌)、5月ローターアクト地区大会(千歳)。キャンプ以外、ほぼ毎月ある行事に参加しました。その他岩見沢RCと札幌北RCで卓話をさせていただきました。

こんなに行事がたくさんあってもほぼ皆勤なのは、もちろん委員会の役目もありますが、ローターアクトのメンバーに会うことが楽しかったからです。それぞれの行事にはホストRCが実行委員会を組織し、「その会を成功させよう、出席者に楽しんでもらおう」と一生懸命準備します。その熱意を感じる事で「ローターアクト委員会で良かった」と思います。今年度のローターアクト地区代表は千歳RCの斎藤心さんでした。久しぶりの女性の地区代表でしたが、1年間本当に良くやっていただき、「社会のリーダーを育てる」ロータリーの目標は達成

できました。

ガバナーはじめ、地区委員会のメンバー、提唱RCのロータリアン、そして地区内全ローターアクターの1年間の活動に感謝いたします。



本年度を振り返って

青少年交換委員会

委員長 野澤 幸平 (岩内)

出船、入船、帰り船。今丁度、約1年間の留学を修了、受入生の派遣生の帰国。新たに出発する派遣生、後半の留学オーストラリア受入生そして次年度派遣生の選考と委員会が最盛期。

千歳空港での涙の旅立ち、笑顔での帰国。この日の為に関係者の努力と奉仕の精神が。

当地区として初めてホストRCへの負担軽減、オリエンテーション費用等06-07年度派遣生保護者より地区負担金として30,000円をお願いすることに決定。

派遣候補生への外国人講師による「英会話教育プログラム」、スピーチ等への対応。またパフォーマンス、書道・手品・茶道等を英語で紹介。

受入学生に好評であった余市、ぶどう狩りの秋季キャンプ、ニセコでのスキーキャンプ。

高校生の、未成年の留学交換プログラム。ホスト高校で、ホストファミリーで行き違いがあってもそれを克服するパワーを培うことまたロータリアンのサポートに素直に感謝出来ることがこのプログラムの財産ではないだろうか。

委員皆様方に協力に感謝して。



ライラ委員会活動報告

ライラ委員会

委員長 宮崎 善昭 (札幌西)

今年度のライラセミナーは、2004年9月11~12日シニアク

ラス、9月18~19日にジュニアクラスセミナーを実施しました。テーマは、「人権について考える」として、日頃あまり身近ではないが人間にとって大切な人権とは何か、また、私たちはあまり気が付いていないが人権の問題は身近なところで色々な形で存在していることを知る事が大きな目標でした。

シニアクラスは、弁護士で札幌人権擁護委員会委員長の高橋剛先生にハンセン氏病患者の差別(人権侵害)について学びを深めました。また、ジュニアクラスは、交換学生との人間関係プログラムにより交流を深め、教育大学の戸田まり先生よりドメスティック・バイオレンスについて学ぶことができました。

人権は、私たちにとって普段は空気のような存在かも知れませんが、その当たり前のことが脅かされている多くの人たちがいることを知ったことは大きな収穫でした。

この3カ年間は、観念的なことではありますが、「共生」、「平和」など将来の社会の指導者になる新世代の人たちにとって重要な知識や考え方を学ぶ機会を創ってきました。参加した多くの新世代にとって更に深く考える機会となれば幸いと考えています。

札幌国際スキーマラソンは、インターアクトと交換留学生を中心に参加し、ガバナーも応援に駆けつけてくださり、2月13日に行われました。始めてスキーをする留学生もいましたが、さすがにフィンランドからの留学生は素晴らしい滑りを見せ、新聞にも掲載されました。昼食のジギスカンパーティーでは、お互いに健闘をたたえ合うことができました。

ライラ・プログラムを推進するに当たっては、地区新世代委員、ライラ委員を始め多くのロータリアンの励ましやご協力を頂きましたことを感謝申し上げます。



初めての試みで 理解が深まった

米山記念奨学委員会

委員長 竹原 巖 (札幌北)

年度当初の委員会の活動方針として「奨学事業の目的と意義を会員の方に理解していただき、そして、より多くの留学生に援助の手を差し伸べ、奨学生との交流や相互理解により、親善を深めていきたい」と掲げました。この方針のもと各種の活動

を積極的に取り組み、会員の理解を深めることが出来たと思っております。

各種の活動のなかに本年度初めて実施したのがあります。その一つに奨学生、奨学生OB、ロータリアン、家族の皆さんが参加して、お国料理を作りそして参加者全員で味わいました。この料理作りを通じた交流会は100名を越す人たちが参加し、大変な好評をいただきました。

二つ目は、奨学事業の成否を握る重要なカウンセラー制度に関して、カウンセラーの方々にお集まりいただき研修会を実施しました。その後の奨学生をお世話していただく上で大きな成果となって現れました。

また、奨学生もロータリーの各種の活動に積極的に協力してくれ、相互理解に貢献して頂きました。



米山学友委員会発足 3年目を終えて

米山学友委員会

委員長 見延 庄三郎 (小樽南)

2002年7月、米山学友会(北)の活動支援を目的として新設された当委員会も、米山記念奨学会の伊藤常務理事の御指導と歴代地区ガバナー始め地区役員や多くのロータリアンの御支援を頂きながら、どうやら達成出来たように思います。改めて関係の皆様へ心からお礼を申し上げます。

3年経過しますと活動内容も概ね形が出来上がり、年々深度が深まってきましたが、何と云っても学友会の活動主体である陳会長を中心とする学友自身が積極的に活動し、会員の意識を高めて下さった事が最大の成果でした。米山奨学事業が奨学期間だけの一過性のものではなく、奨学期間終了後の学友自身がロータリアンとの関係を保ちながら国際親善と交流そして世界の平和の維持増進に貢献すると言う大局観を忘れずに未永く活動して欲しいと願っています。

唯、学友委員長としてやり残したことは、学友会々員(学友及びロータリアン)から年間行事の参加費とは別に、年会費(学友2,000円、ロータリアン5,000円)を頂き、学友会の財政基盤の強化を図る事が必要であります。徹底を欠いた点課題を残しました。幸い第2代目委員長の米谷龍三氏(札幌東RC)

は非常な熱意をもって取組んでいますし、私達も積極的にバックアップし、米山記念奨学事業の本来目的達成に向け努力して参ります。



情報の共有を目指して!

情報・I.C.委員会

委員長 山田 信夫 (苫小牧北)

地区組織構築に当たり遠藤秀雄ガバナーから情報とI.C.を統合した委員会の委員長を委嘱したいとお話をいただきお受けしたわけですが、正直なところ大きなプレッシャーを感じながらスタートしました。

情報については、近年RIが率先垂範しているように多くの情報がインターネットを通じて入ってきます。特に3年に一度の2004年規定審議会の結果を踏まえて「手続要覧2004」を始めとする関連情報を速やかにお伝えすると共に、特筆すべき点は別に解説も加えお伝えしたわけですが、立場、経験などから様々な捕らえ方があることを知り、情報の扱い方の難しさを痛感しました。また、地区内RCからの質問も多数寄せられ回答に四苦八苦しましたが、たいへん勉強になりました。

I.C.については、地区目標の一つ「I.C.による情報をみんなで共有しましょう」を実現する手段の代表格はメールマガジンで、今年度は情報配信を委員で分担できるメーリングリスト*を応用したシステムを導入しました。これは一個人の技量による特別な活動ではなく、電子メールを使う人であれば誰にでもできる活動であるという証明でもあり、継続性を考えると大きな進歩だと考えています。また、これは地区で、RCで導入可能なインターネットコミュニケーションの形であり、今後更に多くの皆さんの情報共有実現に向けた格好の手段として期待が持てます。

さて、地区内の電子メールによる情報交換は、単にメールマガジンを受信するだけでなく、テキスト(文字情報)や画像情報(図や写真)の受け渡しができるメリットを感じていただき、活発に利用されています。これが上手く伝承され更に活用が進むよう期待しています。

また、地区の情報拠点の一つとも言うべき地区ホームページ

では、ガバナー公式訪問やロータリー 100周年記念例会等に関するたくさんのご投稿をいただき充実した内容とすることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

最後に次年度坂井新委員長にエールを送ると共に、活発なインターネットコミュニケーションをお願いします。

***特定のアドレスに電子メールを送信すると登録されたアドレスに一斉配信するシステム**



この1年をふりかえって— 2510地区の更なる発展を祈って

ロータリーの友委員会

委員長 木下 博 (室 蘭)

2004-2005年度「友地区委員」に任ぜられましたが、今一歩の活動報告でした。遠藤秀雄ガバナーにはご寛容の程を。

前期は、日頃の健康管理の雑駁さから体調を崩し、入院治療を余儀なくされ、委員会活動はできませんでした。それでも、「友」誌の全体に眼を通す習慣をつけ、提出義務のあるレポートは毎月欠かさず出しました。委員の責務である、11月号の「わがまち わが地区」(次年度から無し)の執筆、4月号の「地区のたより」の編集も無事すませました。

友常任委員、地区委員合同会議は5月、7月、3月(11月は欠席)に月曜日休診として出席したが、土日、祭日開催に変わらないだろうか。ロータリー 100年という節目の年であり、友誌の内容も充実していた年度であったが、合同会議では雑誌作りのプロの委員などの提言もあって、次年度に向けて編集方針が改革されることになった。小生らの要請により、代理出席を認めない会議の議事録が、3月の会議後初めて本行輝雄所長から送られ、欠席者にとり有用であった。

地区友委員会は3回の開催、雑誌月間には「月信」に委員と共に投稿し、各RC宛に簡単なアンケートをお願いしたが、最大5回のFAXや電話で100%集計達成となりました。ご協力ありがとうございました。

最後に、新年度から塚原房雄ガバナーは組織の簡素化との理由で委員会を休止されました。ロータリーを知り、学び、実践するテキストである「友」誌の広報ならびに利用促進活動を努める委員会の消滅はいかかなものかと理解に苦みます。次年度、丸山淳士ガバナーエレクトでの復活を期待しております。



感謝・感謝の1年間

大会実行委員会

委員長 戸塚 守夫 (登 別)

遠藤秀雄ガバナーの2004~2005年度は地区大会成功の期待と不安が渦巻くなかでスタートしました。そして残りの3ヶ月余りはまたたく間に過ぎて、大会当日を迎えることになりました。登別RC全会員が大会実行委員となり、さらにグループ内6RCから推薦された委員を加え、雪のなか、雨のなかを何度も会議に御足労をかけました。幸い地区幹事会との連携も円滑に進行し、大会当日は文字通り第9グループを挙げて各パートを分担していただきました。厚く御礼を申し上げます。

記念囲碁大会は札幌幌南RCのお世話になりました。すばらしい3日間の秋晴れに恵まれ、1,600余名の登録者が記念ゴルフ大会、会長・幹事会、本会議(2日間)、記念フォーラム、記念講演会など盛沢山のプログラムに参加しました。各会場では登別ならではのホスピタリティを発揮し、会場間の移動もすべてトラブルなく終わったことは、奇蹟としか思えませんでした。大会記念誌も年度末の6月に発行できて、2年間にわたる実行委員会の主な活動に区切りがつけました。

エステスRI会長のテーマ通りに地区会員と共にロータリー100周年を祝えたことは、まことに感慨無量のものがあります。石井 治RI会長代理の講評でエクセレントのお言葉をいただき、改めて地区会員の皆様に心から感謝を申し上げます。



地区委員会

活動報告

第4回 家庭奉仕委員会報告

家庭奉仕委員会

委員長 和田 壬 三 (札幌幌南)

6月4日第4回家庭奉仕委員会を開催しました。

家庭奉仕に関するマニュアルの最終的な編集作業を行いました。午後4時から、午後7時30分まで3時間半に及ぶ長時間かけて各草稿につき点検作業や内容についての議論をしましたが、詰めきれず、再度今月中に最終的な草稿を作り上げる事といたしました。

最大の問題は、健全な家庭作りに対する社会奉仕活動を取り入れるかどうかです。即ち、恵まれない家庭の子に対する奉仕活動や、社会現象である児童虐待、引きこもり、ニート、家庭内暴力、離婚、非婚、老人介護、子育てに悩む親への支援と言った問題を克服するための積極的な活動を取り上げるべきかどうかの問題です。

本来は、社会奉仕活動の人間尊重分野の事業であろうと思いますが、内容的には、家庭奉仕の分野であり、間接的ではありますが、ロータリアンの意識改革にも結びつくものと思われるので改めてこの問題について取り上げて議論することにいたしました。

次回は、6月14日午後6時から和田法律事務所で開催する事に致しました。

(参加委員 小林 博 P G、松本純枝 (深川 R C)、高下泰三 (札幌西 R C)、太田すみ子 (札幌北 R C)、水野正純 (新札幌 R C)、和田壬三 (札幌幌南 R C)、ゲスト長尾靖友 (倶知安 R C))

「ネパール・日本友情学校」が 完成しました」

世界社会奉仕委員会

委員長 齋藤 修 弥 (室 蘭)

昨年末から進められていた江別 R C とネパールタパタリ R C 共同の「ネパール・日本友情学校」の建設と整備がようやく完成し、その写真が届いたので報告します。この事業は職員室兼事務室と2教室の建設ですが、長い年月を経て完成した学校に学ぶ子供たちの明るい笑顔が印象的です。当世界社会奉仕委員会としては、次年度も水資源の確保等を中心に積極的に事業を展開したいと思っておりますので、どしどし事業を申請されますようお願いしております



DONATION FROM ROTARY CLUB OF JAPAN, 2005.

2004-2005国際ロータリー第2510地区 インターアクト年次大会 (静内インターアクトクラブ10周年記念)

インターアクト委員会

副委員長 秋山 秀 雄 (札幌西北)

2004-2005年インターアクト年次大会は静内インターアクトクラブ発足10周年記念を兼ねて6月18、19日の両日に渡り、蘇田又栄第8グループガバナー補佐、佐竹哲雄静内高等学校長、小野武二三静内

農業高等学校長を来賓に迎え、静内ウエリントンホテルを会場として盛大に開催されました。参加したインターアクターは73名、顧問教師は12名でした。静内RC中山弘三郎会長はじめ役員、会員の皆さんが総出で準備・支援してくださり2日間とも終日楽しくそしてスムーズに大会を運営していただきました。

<< 第1日目 >>

○活動報告：静内農業高等学校農業クラブ

1. 「環境にやさしい畜産をめざして」(乳牛研究班)

家畜の糞尿を土壌菌で分解して活性水を作り、ミニトマトの栽培実験を行っている。今後農家で実際に使用していただく予定である。

<静内農高の食品科学科では、乳製品等の製造から販売までを実習したり、生産科学科では軽種馬の生産を行い中央競馬会に「夢ロマン」号を排出しているとの紹介がありました。>

2. 「さくら咲く5単科の花びら」(農業クラブ執行部)

静内町の「さくらまつり」の期間中「静内さくらの会」と連携して「桜基金」の募金活動を実施した。

○意見発表(エキストラ出演)

「馬が創る最高の笑顔」 柵木景子さん(畜産科3年)

南北海道地区大会で優勝した柵木(ませき)景子さんが、近く行われる全道大会出場を前に披露発表をしてくれました。障害者の方がリハビリのために乗馬をすることを通じて周囲の人びとと触れ合い、ありのままの姿で充実した生活を送る素晴らしさを体験されたという内容でした。

○静内IAC10周年記念講演

『夢に向かって』講師(財)修養団 久世 郁夫先生

「イヤイヤやっても自分の人生、喜んでやっても自分の人生、どうせやるなら喜んでやろう」というキャッチフレーズの下に、[受身ではなく前向きに][夢を持って足元から実行][一所懸命は美しい]ということばで表現される人間の生き方についてお話があり、若人の心の中に熱い感動を与える印象深い講演でした。

○夕食

18:30頃から夕食となったが席上静内農業高校の生徒が学内工場「あぐり工房」で作ったアイスク

リーム『桜樹』がデザートとしてふるまわれた。このアイスクリームは乳脂肪分が高い牛乳を原料としてバニラビーンズを香料に使用し、卵を使わないアイスであり、食物アレルギーがある人でも安心して食べられるように工夫されている美味なものでした。

<< 第2日目 >>

○乗馬体験

「ライディングヒルズ静内」にバスで移動して牧場のお姉さん、お兄さん達(ほとんどが道外出身)が引いてくれる馬にまたがって場内を一周した。乗馬は初めてという生徒も多く笑顔を見せつつも緊張気味であった。馬の背中の大きさと暖かさを肌で感じたことでしょう。

○ジンギスカン昼食

シャクシャイン記念館においてご当地自慢のジンギスカン昼食となったが、肉は静内RC中山会長自ら熱い炭火の前で汗を一杯かきながら焼いて下さった。一同頭が下がる思いで感謝しながらとてもおいしくそしてお腹一杯ご馳走になりました。静内RCの会員の皆様、素晴らしい思い出を作ってください心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



“会議は踊る”・“職業奉仕論議” 心景・エステス100周年会議



職業奉仕委員会

カウンセラー 石垣博美 (札幌セントラル, PG)

(1) 信頼社会

さる4月29日、30日、ご案内のとおり、エステス R I 会長主催の晩餐会、100周年記念会議が開かれた。グレン・エステスさんは、車椅子に乗りながらも、力強く訴えたのである。ロータリーは「任意団体」(ノン・エンティティ)の思想運動が100年間も生きのびているケースは珍しい。ふりかえてみると、この100年は革命と戦争、民族・宗教間抗争など混乱の世紀であった。この試練の1世紀にロータリー運動を支えてきたものは何か。それは「社会的信頼」(public trust)だったとエステスは叫んだ。だが、社会から信頼を受けるためには、ロータリーという集団社会そのものが、まず「信頼社会」でなければならない。100年前、ロータリーは「相互信頼・相互扶助」の小さなサークルから出発した。この「信頼社会」をコミュニティー全体に普及させる運動を続けてきたのである。だからこそ、社会からの信頼を勝ち得たのだ、と叫んだ。

我々は、この「社会的信頼」という言葉に感動する。ロータリーはこれまで「信頼社会」(F・フクヤマ)を形成し、それを広めることを志してきたのである。具体的にはともかくも基本的に相互扶助の「信頼社会」の普及を目指してきたのである。リベラルな民主主義は、世界中どこでも、無法・無秩序な社会風潮を生み、道徳的頹廃をもたらす。これを防ぐためには、相互信頼の社会を望ましいとする社会的雰囲気、社会的倫理

感覚を育てなければならない。このような「エートス」(M・ウェーバー)の醸成がロータリーの大目標であったし、これからもそうだ。このことを確かめて我々は、前進しよう。とエステスさんは呼びかけたと思う。

(2) ロータリーは「倫理運動」だ

エステス基調講演のあと、つづいて深川純一氏の講演がなされた。タイトルは「職業倫理」である。論旨明快、レトリックのうまさ、めったに聞けないほどの名スピーチであった。聴衆はうなった。私は、深川氏の話の秀逸さに強く印象づけられたが、ここにも「信頼社会」の大切さが詠われているように思われた。(同業者への信頼、友愛、そして確固たる自己の職業への天職的傾倒の心、それは「4つのテスト」に通ずるものである)さらにまた、第一分科会の議論にも一般会議でのメインテーマの熱気が伝わった。(エステスさんが主要テーマを職業奉仕に決めたといわれる)。

(3) 交流から奉仕へ

パネリストの松宮 剛氏(茅ヶ崎)のスピーチは、深川氏同様、ロータリーの創草期の「道徳律」・「職業宣言」・「4つのテスト」・「天津宣言」などを強調した。そして、ロータリーは職業の意味を考える道場だということを強調した。すなわち、ロータリアンになると、人はクラブ内の社交を通して自ら、相互扶助・信頼・

互酬の礼儀・作法を学ぶ。幸いに日本の伝統社会には互酬の慣習が深く根付いている。

「お互いさま」・「どちらにか」という言葉によくあらわれている。そこには直接的な見返りを求めない他者への贈与の気持ち（＝奉仕）と、将来自分が困難に陥ったときには助けてくれるかも知れないという気持ちが込められている。いうまでもなく、こうした気分に基づく贈与行動は、当事者たちの間の友好・信頼の関係を前提としている。松宮さんはここで、「交流」を強調する。私はこの言葉に共鳴する。ロータリーの特徴は「異業者交流」や国際的な「異文化交流」・「GSE交流」などのプロジェクトに表れている。RC内の管理運営方式の「交替制」もそうだ。さて、我々ロータリアンはなぜこうした交流による信頼・互酬の人間同士の関係を強調するのだろうか。松宮氏によると、RC内の懇親を通して培った信頼・互酬の関係で自分の職業の現場に適用し、よってもっと職業の品位を高め、職業倫理の水準を高めるためだと説く。

④ ロータリアンの理想とする社会像

ところで、ロータリアンがRC生活の中から自然に学習する奉仕哲学は、職場において接触するほどのすべての人々の関係に影響力をもたずである。このようにして、形成される「人間の絆」がネットワークをつくり、コミュニティ全体に広がってゆくことが望ましい。なぜかといえば、社会とか経済とかの人間活動が盛んになるための主役は、結局のところ、人間であるからだ。人間同士の関係が一番大切である。社会のパフォーマンスもこれに左右される。という、そんなことは当たり前ではないと言われるかもしれない。確かに古今東西、当たり前のことである。しかし、この当たり前のことをロータリーは100年間実践し、職業奉仕理念を広めてきたのであった。

この会議には、あと二人のスピーカーが参加している。ひとり道下俊一PG（2500地区）である。あのバリトン・バスの低音で語られる言葉にひとつひとつ

つ重みがあり、聴衆を圧倒した。ただ我々は彼の発言の中に、毎回「社交クラブのロータリー」の句が出ていることに気付く。「社交」ということの中に含まれる礼儀作法の基本がロータリーの出発点だと道下さんは言い続けているように思う。私達はもっとこの事を考えなければならないのではないか。

もうひとり、司会を務めた菅生浩三である。菅生さんの司会で会場は熱気をはらみ、多くの参加者がマイクに向かった。甲論乙駁で談論が飛び散った。会議は踊ったのである。私どもは興奮した。しかしながら、最後に司会者が述べた言葉にさらに興奮した。

それはこうである。私自身の独断と偏見も入るが、深川さんの言うようにロータリーは倫理運動であるにしても、それには内向きと外向きがある。100周年を節目にして、ロータリーは、社会的に発信してゆく時期にきているのではないか。たぶん、これが菅生さんの主張ではないかと思う。私はこれをサポートしたい。例えば、ごく最近、経済学の学問分野では、「見えざる社会資本」(invisible social capital, 略してSC)という議論が提唱されてきた。経済とか社会とかのパフォーマンスは、結局のところ、これまでのように見える社会的インフラ（道路や空港のような）だけでなく、見えざる資本（さきに述べた信頼・互酬・奉仕・期待などの相互性）に左右されることが大きくなるというものである。そうすると、ロータリー活動はこうした行動科学的研究の恰好の調査現場のパイオニアの役割を果たすべきなのではないだろうか。そういう関連からいえば、ロータリーは外にむかって、発信する時期が今、まさに到来しているように思う。なぜなら、ポスト・モダンの成熟経済社会の問題解決には、ロータリーの目指す信頼社会形成のニーズが強まるに違いないからである。（具体的には、大学の公開講座や初等中等教育の総合講座への参画など）。

会議は大いに踊ったのであった。そしてロータリーは前進する。

親睦活動委員会ニュース

◇◇ 第15回 J G F R 北海道記念大会成績表 ◇◇

※ 6月27日（月） 第15回 J G F R 北海道記念ゴルフ大会が苫小牧カントリー倶楽部ブルックスコースにて全国より83名参加のもと開催

	A 部門				
	氏名	所属RC	グロス	HC	NET
優勝	横山 悦朗	横 浜 東	90	19.2	70.8
2位	杵田 宣彌	大阪中之島	77	6.0	71.0
3位	前田 博憲	佐 賀 西	93	21.6	71.4
4位	嶋岡 邦雄	旭 川	85	13.2	71.8
5位	應原 立吉	東 広 島	85	13.2	71.8
6位	谷口 智治	東京世田谷	71	+1.2	72.2
7位	大城 俊夫	東京中央	82	9.6	72.4
8位	尼子 直喜	香 岐 中央	82	9.6	72.4
9位	小野 朝康	豊 田 中	88	15.6	72.4
10位	日野岡信太郎	茨 木	81	8.4	72.6

－ グロス賞 －

A部門

1位	谷口 智治（東京世田谷）	71
2位	金子 賢一（岩見沢東）	76
3位	杵田 宣彌（大阪中之島）	77

B部門（70歳以上）

1位	小島 久雄（長 泉）	81
----	------------	----

C部門（女性）

1位	松崎 範子（高知東）	96
----	------------	----

－ ベストペア賞 －

ネット 計

1位	大城 俊夫・大城 誼子（東京中央）	72.4 73.2	145.6
2位	杵田 宣彌・杵田真佐子（大阪中之島）	71.0 77.8	148.8
3位	松崎 郷輔・松崎 範子（高知東）	76.2 73.2	149.4

	B 部門（70歳以上）				
	氏名	所属RC	グロス	HC	NET
優勝	村田 茂	四 日 市	87	15.6	71.4
2位	今井賢二郎	大阪城南	82	8.4	73.6
3位	小島 久雄	長 泉	81	7.2	73.8
4位	遠藤 秀雄	2510地区G	96	21.6	74.4
5位	林 輝信	東京浅草	94	19.2	74.8

	C 部門（女性全員）				
	氏名	所属RC	グロス	HC	NET
優勝	松崎 範子	高知東	96	22.8	73.2
2位	大城 誼子	東京中央	96	22.8	73.2
3位	河野美佐子	東京浅草	107	30.0	77.0
4位	田中 公子	総 社	97	19.2	77.8
5位	杵田真佐子	大阪中之島	109	31.2	77.8

※ 2005年 I G F R 世界大会が6月16日～19日オーストラリア（ロイヤルパインリゾートコース）にて開催され当地区より、灰野 篁さん（札幌北RC）、佐藤 馨さん（札幌RC）、金子賢一さん（岩見沢東RC）の3名が参加され、グロス1位に佐藤馨さん、ネット1位に金子賢一さんと大変な活躍でした。

クラブ活動 紹介

チャリティコンサートを開催

札幌東RC 社会奉仕委員会、音楽委員会

当RC社会奉仕委員会、音楽委員会合同によるチェロ奏者金木博幸氏のチャリティコンサートが4月21日に札幌コンサートホールにて開催されました。当日は身体に障害のある方が多数招待され、コンサートを楽しみました。

当日収益金と札幌インナーホイールクラブからの募金を、代表して小田切房之会長より社会福祉法人「北海道いのちの電話」の桂信雄理事長へ贈呈されました。

コンサートは、チェロとピアノだけとは思えない迫力ある演奏で、2度のアンコールを含め、無事に終了しました。



プロ野球セパ交流戦に 障害者100人招待

札幌東RC 社会奉仕委員会

5月14日、札幌の養護施設に通う知的障害者100人が札幌ドームでのセパ交流戦、日本ハム対横浜ベイスターズの試合に招待され野球観戦を楽しみました。

社会奉仕委員会主催のこの催しは、昨秋に予定されていたものでしたが、あいにくの選手会のストで中止になった経緯があります。

招待を受けた障害者の方たちは、ススキノ日ハム会会長藤井英勝会員から差し入れられたお弁当をいただき、メガホンを持って応援していました。

結果は息詰まる投手戦となりましたが、みんなの応援の甲斐があり、日ハム江尻投手がプロ入り初の2安打完封、1-0でファイターズが勝利をおさめました。



傷ついた子 笑顔戻った

静内 R C

国際奉仕委員会委員長 平野井 繁

静内 R C では別紙の北海道新聞にもある様にカンボジアで活動している (N P O 法人) 「子供たちの笑顔を守る会」に以前より参加させて頂き、2001年にポンプを4基作ってあげました。又、今日は施設の生活棟は出来ませんが少々不足している所があるとの話を聞き、当 R C の国際奉仕委員会及び理事会に計り100周年記念事業の一つとして、その他の建物をと言う事でトイレ、シャワー室、物入れ室1棟16平方メートルを支援する事を決め2004年11月に20万円を送ったのであります。

それが4月に完成して別紙の建物が出来ました。

委員会として完成式に参列する事にしておりましたが、日時の都合で、参列出来ませんでした。今年は施設の子供達の使う学用品等を持参したいと考えております。

子供たちの受け入れ施設の前で、完成を喜ぶ新井さん（左から2人目）とスタッフ＝「子供たちの笑顔を守る会」提供

傷ついた子 笑顔戻った

カンボジアで苦小牧のNPO

支援施設が完成

人身売買... 6人を受け入れ

「子供たちの笑顔を守る会」がカンボジアで活動している。当初は貧しい生活を送る子供たちを救済し、養育し自立させる活動に力を入れている。今年、施設の子供達の使う学用品等を持参したいと考えております。

<< 「SCSA」センターの概要 >>

1. センターの名称 「正法学園」
2. センターの所在地
 - ・Doun Teav Rolous village Bakong commune Siem Reap province
3. センターの設立及び運営者
 - NPO法人「子供たちの笑顔を守る会」
4. 会の責任者
 - 「子供たちの笑顔を守る会」代表 新井 繁
5. センターの組織
 - ・センターの責任者 新井 繁
 - ・アドバイザー Hout Sothy
 - ・アドバイザー Riem Sunsoley
 - ・日本語通訳 Chhoun Sophath
 - ・調理師 村長夫人
6. センター運営の目的
 - カンボジアの人身売買された子及び、人身売買される可能性のある子を救出・養育し自立させる活動に関する事業を行い、国際貢献のための人道支援に寄与することを目的とする。
7. センターの施設設備
 - (1) 生活棟
 - ・木造2階建、床総面積 420平方メートル
 - (2) その他の建物
 - ・トイレ・シャワー室、物入れ室1棟 16平方メートル
 - ・屋外洗濯場
 - (3) その他
 - ・駐車場 ・井戸2基 ・供水タンク
8. 子供の収容人数
 - 14名 (6歳から15歳までの男女)
9. 子供の収容期間
 - 子供が自立できるまで収容する。
10. センターの運営費用
 - ・子供の養育費 年額 3,360ドル (1人月20ドル 14名)
 - ・施設運営費 年額 2,400ドル (1ヶ月200ドル)
11. センター事務所の所在地と連絡先
 - No.0114 Sankeat 111, Village Phoum Trag Khum Slakram Siem Reap
 - ・責任者 新井 繁
 - Tel 063-760-802 携帯 012-356-022
 - ・アドバイザー Hout Sothy
 - Tel 012-920-546
 - ・アドバイザー Riem Sunsoley
 - Tel 012-858-015

チャリティー パークゴルフ大会実施報告

江差RC会長 深見 秀治

1. 実施日時 2005年6月19日(日)
2. 実施場所 桧山郡厚沢部町パークゴルフ場
3. 主催 国際ロータリー 2510地区 江差RC
4. 参加者 合計115名
一般男子 65名(厚沢部町15名、江差町24名、乙部町6名、上の国町10名、江差RC10名)
一般女子 50名(厚沢部町19名、江差町10名、乙部町6名、上の国町6名、江差RC9名)

5. 総括

過疎地域の小さな田舎のRCの当RC(現在16名会員)は、財政的、組織的から存在位置すら危ぶまれている現状にあって、国際RI第2510地区、同地区第10、11グループRCの支えを受けながら辛うじてRIの義務をはたしているところです。それでも何とか43年の歴史を有する当RCを地域から火を消さない努力を日々葛藤している現状ですが、職業を通しての社会奉仕を原点にしている国際ロータリー思想に照らし、当地域内の企業規模が零細化している等の実情から組織強化の基礎になります会員確保が中々スムーズにいけない現実に直面しているところです。

そのような背景にありながら、ロータリー創立100年の歩みに敬意を表し、地域内に国際ロータリーを周知すること。そして国際ロータリーを身近な存在にすること、などの方針を立てながら2004-2005年度の100周年事業に取り組み、その一つとして国際ロータリー理念の再確認や当RCの43年に及ぶ社会奉仕事業実績の語りを主題にした会員、家族間での2月23日記念例会の実施、また、地域還元型、地域周知事業として、江差町を中心とした近隣町を対象にしたチャリティーパークゴルフ開催に至った次第です。この大会の特色として大会当日は、当RCは黒子に徹することとし、大会運営の全てを江差と厚沢部町のパークゴルフ協会にお願いして、正規なルールとマナーを厳守させ、その一方で4町交流、親睦型の大会に終始しました。

大会当日は厚沢部町の山間パークゴルフ場にやさしく初夏の日差しが注ぐなか、開会式では、深見会長か

ら国際ロータリーの組織、活動などを判り易く説明しながらの挨拶となり、一般参加者から共感を受けながらの和気藹々とした競技大会になりました。

競技終了後、成績集計までの間の約1時間、一般参加者と当RC会員、家族のなかで昼食を取りながらの雑談、交流が各所で輪ができてたり、想像以上のロータリー親睦が図られたのではないかと実施した喜びを共有することができました。

成績結果は、優勝、上位入賞者共、地元厚沢部町選手が圧倒し、江差RCの参加会員、家族は下位に名を並べ悲惨な成績になりましたが、精一杯プレーした満足感に浸った時を得ました。表彰式では、男女別優勝者、上位入賞者、各賞の商品にロータリーマークが刻まれた品々が配られました。和気藹々とした閉会式にあって115名の参加者の声として、国際ロータリーパークゴルフ杯の継続化が叫ばれるまでに発展し、江差RCはその熱気を無駄にしないよう意を強くさせられる一瞬でした。

その日の反省会、慰労会のなかでも継続大会のことに集中し、次期会長、次期社会奉仕委員会員も前向きな本音を明かし、6月21日の例会、理事会において、具体的要領については新年度において検討することとした内容で、江差RC主催のパークゴルフ杯実施に対して一定の方向を決めた次第です。

また、参加者からの浄財及び会員、家族からの特別寄付金1,000 \$の有効な用途について、ロータリー財団寄付(ポリオ・プラス)とした次第です。



当別の夏至祭にスウェーデンの ロータリアンがやって来た

当別RC幹事 六角 英一

6月20日当別RCの例会にスウェーデンからお客様がやってきました。それはケイコ・マクナマラさん（第2410地区ノーショッピング市ノーラクラブ）と、ホーカン・ポリエソンさん（第2410地区ノーショッピング市ビッグボランテッドクラブ）ご夫妻です。

当別町とスウェーデンのレクスンド市は姉妹都市として、交流を深めています。このレクスンド市でもっとも盛んであるスウェーデンの伝統行事を取り入れた当別町の夏のイベント「夏至祭」の前夜祭に、お二人はジャズコンサートを開催。新曲「夢の国・当別」を同町にプレゼントして下さいました。

そして、お忙しい合間をぬって是非例会に出席したいとのうれしいご希望があり、実現しました。例会では気さくにアカペラでご夫婦の歌声を披露して下さい

り、ロータリアンであることの素晴らしさと、これからは子どもたちのために何かしていきたいと夢を語っていただきました。

明るくパワフルなケイコさんとやさしいホーカンさんとの楽しい例会のひと時を過ごしました。



ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

室蘭北RC	澤山 豊	会員	5月27日
室蘭北RC	廣瀬 禎	会員	5月27日
江別RC	山崎 一夫	会員	4月5日
恵庭RC	中里 邦治	会員	6月24日
岩見沢東RC	渡辺 博人	会員	6月3日
岩見沢東RC	坂口 堅一	会員	6月3日
岩見沢東RC	坂田 知樹	会員	6月10日
札幌西RC	高下 泰三	会員	6月24日

札幌手稲RC	網干 要	会員	6月24日
札幌手稲RC	肘井 博行	会員	6月24日

ポール・ハリス・フェロー

室蘭北RC	高橋 保史	会員	5月27日
室蘭北RC	松島 茂	会員	5月27日
室蘭東RC	遊佐 潤	会員	6月17日
札幌手稲RC	阿部 光行	会員	6月24日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

江別西RC	上光 一博	会員	5月9日 (1)
倶知安RC	関 幸吉	会員	5月2日 (1)
札幌南RC	掛隅 晴雄	会員	5月31日 (2) (マルチプル)
苫小牧東RC	三小田吉邦	会員	5月25日 (1)
赤平RC	藤永 貞治	会員	6月29日 (3) (マルチプル)
赤平RC	岡田 知治	会員	6月29日 (3) (マルチプル)
函館五稜郭RC	福德 勲	会員	6月10日 (3) (マルチプル)

室蘭北RC	日笠 正順	会員	6月27日 (2) (マルチプル)
小樽銭函RC	河崎 義章	会員	6月30日 (1)
札幌東RC	奥村 義夫	会員	6月28日 (4) (マルチプル)
札幌南RC	小林 昌志	会員	6月1日 (5) (マルチプル)
札幌モーニングRC	宮澤 功行	会員	6月27日 (2) (マルチプル)
札幌手稲RC	肘井 博行	会員	6月20日 (1)
白老RC	杉村 孝	会員	6月23日 (1)

訃報

慎んでお悔やみ申し上げますとともに、
心からご冥福をお祈りいたします。

小山 利雄 会員 (栗沢RC)
2005年2月14日ご逝去 (享年80歳)

【ロータリー歴】
1964年6月1日入会 (チャーターメンバー)
1973～74年度 会長
1985～86年度 第3分区代理
2004年10月 40年永年100%表彰



職業分類・ロータリー情報・ロータリー財団・会員増強・職業奉仕等各委員長を務められました。

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー・米山功労者

山下 眞 会員 (留萌RC)
2005年2月28日ご逝去 (享年77歳)

【ロータリー歴】
1982年8月11日入会
1988～89年度 副SAA
1992～93年度 情報委員長
2000～02年度 資料管理委員長
2004～05年度 雑誌・広報・
資料管理委員長



平井 勉 会員 (岩見沢東RC)
2005年5月9日ご逝去 (享年70歳)

【ロータリー歴】
1990年6月入会
1996～97年度 第14代会長
2004～05年度 社会奉仕委員長



出席・会員増強・ロータリー情報・
ロータリー財団・SAA各委員会委員
長を務められました。

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

藤岡 和男 会員 (白老RC)
2005年6月23日ご逝去 (享年76歳)

【ロータリー歴】
1979年6月羽幌RC入会 (チャーターメンバー)
1982～83年度 会長
1989年1月白老RC入会
1991～92年度 会長



ロータリー情報委員長、会員増強・
選考・職業分類委員長、雑誌・広報・会報委員長、就職
相談・職業活動表彰委員長、会計、SAAを歴任

ポール・ハリス・フェロー (2)

掲示板

◆ガバナー月信6月号の記載について

○p14「ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます」
「ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます」中、
「河村 佳男会員」「泉亭 俊徳会員」と掲載するところ
を誤って「川村 義雄会員」「泉亭 祐司会員」と掲
載致しました。お詫びして訂正致します。

○裏表紙の標語について
裏表紙の標語について、「Fellowship Activities」と
掲載するところを誤って「Fellowip Actinities」と掲
載致しました。お詫びして訂正致します。



5月会員増減数・出席率報告

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			04.7.1	05.5.31	増減内	内女性	
1	深 川	4	40	39	-1	1	87.50
	羽 幌	3	47	47	0	1	88.89
	妹 背 牛	3	10	10	0	0	80.00
	小 平	4	14	13	-1	0	87.27
	留 萌	3	59	52	-7	0	87.29
	小 計		170	161	-9	2	86.19
2	赤 平	4	34	34	0	2	80.55
	芦 別	3	54	50	-4	0	81.33
	砂 川	3	54	51	-3	0	98.04
	滝 川	3	109	109	0	2	77.00
	小 計		251	244	-7	4	84.23
3	美 唄	2	42	43	1	0	95.71
	江 別	3	43	40	-3	1	91.01
	江 別 西	4	37	36	-1	3	88.18
	岩 見 沢	3	94	95	1	0	91.30
	岩 見 沢 東	4	37	36	-1	3	79.88
	栗 沢	3	26	24	-2	1	97.22
	栗 山	4	29	30	1	2	100.00
	当 別	4	38	39	1	1	83.86
	小 計		346	343	-3	11	90.90
	4	札 幌	3	123	128	5	0
札幌あけぼの		3	16	16	0	1	100.00
札幌はまなす		4	24	23	-1	4	77.28
札 幌 北		3	49	46	-3	5	96.60
札幌モーニング		3	54	56	2	0	72.33
札 幌 西		4	69	73	4	3	91.40
札 幌 西 北		3	48	50	2	2	83.76
札 幌 手 稲		4	39	42	3	1	99.41
小 計			422	434	12	16	89.83
5	札 幌 東	3	125	124	-1	0	99.11
	札 幌 清 田	4	26	28	2	6	100.00
	札 幌 幌 南	3	69	69	0	0	99.49
	札幌真駒内	3	44	46	2	2	92.01
	札 幌 南	3	91	96	5	0	97.08
	札幌大通公園	4	19	21	2	4	65.25
	札幌セントラル	4	19	17	-2	5	84.00
	新 札 幌	3	36	33	-3	1	87.28
	小 計		429	434	5	18	90.53
	6	岩 内	3	33	31	-2	0
俱 知 安		4	54	53	-1	3	72.00
小 樽		4	74	74	0	0	88.21
小 樽 南		3	86	84	-2	0	81.83
小 樽 銭 函		3	23	25	2	3	88.00
蘭 越		4	14	12	-2	0	73.50
余 市		3	43	43	0	4	80.23
小 計			327	322	-5	10	78.40

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,136人
 当月末会員数(女性) 3,120(89)人
 増加会員数 -16人
 当月平均出席率 83.24%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			04.7.1	05.5.31	増減内	内女性	
7	千 歳	3	65	62	-3	2	84.10
	千歳セントラル	3	30	28	-2	0	85.70
	恵 庭	3	51	51	0	0	79.16
	北 広 島	4	19	19	0	2	86.11
	長 沼	4	18	18	0	3	86.16
	由 仁	3	15	15	0	0	93.33
	小 計		198	193	-5	7	85.76
8	え り も	3	24	23	-1	0	81.16
	三 石	4	17	17	0	1	83.80
	様 似	4	19	18	-1	1	77.77
	静 内	3	67	69	2	0	80.41
	浦 河	4	40	39	-1	1	86.54
	小 計		167	166	-1	3	81.94
9	伊 達	4	56	59	3	0	76.27
	室 蘭	3	51	53	2	0	100.00
	室 蘭 東	3	43	44	1	0	91.60
	室 蘭 北	4	37	37	0	2	92.57
	登 別	3	39	39	0	2	82.05
	洞 爺 湖	3	10	9	-1	0	81.48
	小 計		236	241	5	4	87.33
10	函 館	3	101	99	-2	0	80.61
	函 館 亀 田	4	42	46	4	1	76.09
	森	4	43	43	0	0	69.00
	七 飯	4	24	24	0	0	71.80
	長 万 部	4	13	13	0	0	64.55
小 計		223	225	2	1	72.41	
11	江 差	4	16	17	1	0	73.20
	函館五稜郭	3	68	63	-5	0	94.39
	函 館 東	4	50	45	-5	4	79.07
	函 館 北	3	37	36	-1	0	71.30
	上 磯	3	29	29	0	3	52.40
	松 前	4	9	9	0	1	66.67
小 計		209	199	-10	8	72.84	
12	白 老	4	29	26	-3	0	82.00
	苫 小 牧	3	56	62	6	0	62.00
	苫 小 牧 東	3	32	32	0	3	86.45
	苫 小 牧 北	4	41	38	-3	2	83.84
	小 計		158	158	0	5	78.57
合 計		3,136	3,120	-16	89	83.24	

6月会員増減数・出席率報告



グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			04.7.1	05.6.30	増減内	内女性	
1	深川	4	40	38	-2	1	86.11
	羽幌	4	47	47	0	1	82.14
	妹背牛	4	10	10	0	0	82.50
	小平	4	14	11	-3	0	76.92
	留萌	5	59	49	-10	0	87.13
小計			170	155	-15	2	82.96
2	赤平	3	34	33	-1	2	92.31
	芦別	4	54	49	-5	0	79.00
	砂川	4	54	51	-3	0	96.08
	滝川	2	109	106	-3	2	82.00
小計			251	239	-12	4	87.35
3	美唄	5	42	43	1	0	92.40
	江別	5	43	36	-7	1	87.59
	江別西	4	37	35	-2	3	91.66
	岩見沢	4	94	96	2	0	90.34
	岩見沢東	4	37	35	-2	3	78.95
	栗沢	5	26	24	-2	1	94.99
	栗山	4	29	30	1	2	92.86
	当別	4	38	38	0	1	84.68
	小計			346	337	-9	11
4	札幌	5	123	123	0	0	98.55
	札幌あけぼの	4	16	16	0	1	100.00
	札幌はまなす	4	24	23	-1	4	73.87
	札幌北	4	49	43	-6	5	94.19
	札幌モーニング	5	54	53	-1	0	67.92
	札幌西	4	69	73	4	3	91.43
	札幌西北	4	48	49	1	2	93.45
	札幌手稲	4	39	42	3	1	98.81
小計			422	422	0	16	89.78
5	札幌東	5	125	122	-3	0	97.77
	札幌清田	4	26	28	2	6	100.00
	札幌幌南	4	69	69	0	0	100.00
	札幌真駒内	5	44	46	2	3	90.69
	札幌南	4	91	89	-2	0	96.30
	札幌大通公園	4	19	21	2	4	66.66
	札幌セントラル	4	19	17	-2	5	80.00
	新札幌	5	36	32	-4	1	93.05
小計			429	424	-5	19	90.56
6	岩内	5	33	28	-5	0	78.00
	倶知安	4	54	53	-1	3	82.00
	小樽	3	74	64	-10	0	85.78
	小樽南	4	86	80	-6	0	88.85
	小樽銭函	5	23	25	2	3	92.00
	蘭越	4	14	12	-2	0	87.46
余市	5	43	43	0	4	90.23	
小計			327	305	-22	10	86.33

クラブ数 72クラブ
 期首会員数 3,136人
 当月末会員数(女性) 3,016(90)人
 増加会員数 -120人
 当月平均出席率 84.09%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			04.7.1	05.6.30	増減内	内女性	
7	千歳	4	65	61	-4	2	90.70
	千歳セントラル	4	30	27	-3	0	82.80
	恵庭	5	51	49	-2	0	81.23
	北広島	4	19	19	0	2	87.50
	長沼	4	18	18	0	3	87.55
	由仁	4	15	13	-2	0	70.00
小計			198	187	-11	7	83.30
8	えりも	5	24	23	-1	0	93.04
	三石	4	17	17	0	1	89.70
	様似	4	19	18	-1	1	75.00
	静内	5	67	68	1	0	77.98
	浦河	4	40	39	-1	1	82.10
	小計			167	165	-2	3
9	伊達	4	56	55	-1	0	79.31
	室蘭	4	51	52	1	0	90.02
	室蘭東	4	43	45	2	0	90.60
	室蘭北	4	37	37	0	2	94.60
	登別	5	39	36	-3	2	84.02
	洞爺湖	4	10	9	-1	0	88.89
小計			236	234	-2	4	87.91
10	函館	5	101	91	-10	0	80.82
	函館亀田	4	42	43	1	1	75.00
	森	4	43	43	0	0	79.00
	七飯	3	24	20	-4	0	73.60
	長万部	4	13	13	0	0	54.10
	小計			223	210	-13	1
11	江差	4	16	15	-1	0	78.40
	函館五稜郭	4	68	61	-7	0	93.87
	函館東	4	50	43	-7	4	78.73
	函館北	4	37	32	-5	0	76.39
	上磯	4	29	29	0	3	55.20
	松前	4	9	9	0	1	66.67
小計			209	189	-20	8	74.88
12	白老	4	29	25	-4	0	80.00
	苫小牧	4	56	55	-1	0	72.51
	苫小牧東	4	32	32	0	3	83.59
	苫小牧北	4	41	37	-4	2	87.04
	小計			158	149	-9	5
合計			3,136	3,016	-120	90	84.09



編集後記

月信発行の準備を始めてから今日の最終校正まで、早いもので約1年半を経過致しました。この間、地区のガバナー補佐・委員会委員長の皆様や、地区内RCの会長・幹事の皆様には大変にお忙しい中、多くの記事投稿にご協力をいただきましたこと、担当者一同、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地区幹事を担当することになった時期、「ロータリーの友」に作家堺屋太一さんの記念講演要旨が掲載されていました。強調されていたことの一つに、「補佐役と参謀は違う」ということがありました。参謀というのは知恵袋で、何かをしたがる。ゆえに、なにもしなくなったら参謀の値打ちはない。対して補佐役とは、みんなが成長しているときには成長を抑え、皆が退嬰的になっているときは新しい仕事をつくりだす。そういうバランス感覚が必要である。また、自分で手柄をたてないことが補佐役として重要である。ガバナーを支えるスタッフの一員として何度も読み返した文章でした。

「河海不択細流＝黄河や海は小川だからと言って選り好みせず、併せ入れるからこのように大きくなる。」ということばにあるように、黄河に限らず大きい川というのははじめから大きいのではなくて、いろいろな小さな川を併せていって、その結果大河になっていくのです。

ロータリーは、100年の時の流れを得て大河になりました。ロータリーの新2世紀でもその河は澱むことなく流れ続けると信じています。

ロータリアン同士、心を広くもって色々な意見を交わすことはとても大切なことであります。小さな川や汚れた川もロータリー大河は受け入れなければなりません。時には耳に逆らうような意見もあるかも知れませんが、自分のため、組織のため謙虚に受け入れる姿勢が大事なこともあると思います。ガバナー月信は、それを担える地区唯一の掲示板ともいえるでしょう

ガバナー月信が、手続要覧に記されている一方的な連絡ツールとしてのみ利用されるのは、あまりにも勿体無いものと考えます。

新年度の月信編集担当の皆様への健闘に期待致します。



ROTARY

Club Service 100 years

www.rotary.info



DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL
2004-2005
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER